FORUM8™
Virtual reality design studio
UC-win/Road

映像新聞
令和元年（2019年）　7月29日　第2393号
株式会社 映像新聞社
Weekly THE EIZOSHIMBUN
(VISUAL COMMUNICATIONS JOURNAL)
〒112-0006　東京都文京区小日向1丁目24番8号エイゾービル
電話：(03)3942-2161(代)／ファクス：(03)3942-2581
昭和42年1月25日　第3種郵便物認可　郵便振替：00140-0-65786
1部600円、年間購読料26,000円（税別）
©映像新聞社　毎週月曜日発行（月4回発行）

CS番組の受送信IP化

グループ4局にも直接配信

TOKAIケーブル

静岡県東部・中部地域をサービスエリアとするCATV事業者のTOKAIケーブルネットワーク（本社＝静岡県沼津市／以下、TOKAIケーブル）は、プラットフォームである日本デジタル配信（JDS）からのCSデジタル放送の受信、および自社局、子会社のグループCATV局への送信をIP化し、5月から全面的な運用を開始している。CSデジタル設備が更新期を迎えていたことから設備を検討。JDSがIP送信を実施していることやメーカーの対応も進んでいることから、IP化することにした。

TOKAIケーブルはこれまで、神奈川県厚木市の厚木伊勢原ケーブルネットワークのヘッドエンドで、JDSからの番組ソースをRF信号で受け、リマックス装置を介して、自社エリアの各局（御殿場、西静、沼津、三島、富士）、およびグループ子会社4局（厚木伊勢原ケーブルネットワーク／神奈川県厚木市、いちはらコミュニティー・ネットワーク・テレビ／千葉県市原市、イースト・コミュニケーションズ／千葉市緑区、トコちゃんねる静岡／静岡市清水区）にRFで配信してきた。

TOKAIケーブルでは、JDSが既にIP配信を実施しており、CATVの設備を手掛けるメーカーからもIP化の提案があったこと、CATV業界にIP化推進の流れがあることなどから、CSデジタルの設備の拠点間伝送にIP配信を導入することを検討した。

TOKAIケーブル技術本部 技術部長の大野弘信氏は、「RFの運用では、拠点間に専用の光ファイバーを、冗長化を図るために2本敷いていた。これらネットワークと設備はRFの受送信でしか使えない。IP配信は自社ネットワークが使えるので、コストも抑えられ、柔軟性も高いと判断した」と話す。

TOKAIケーブルでは2年前、大型台風の影響で沼津ネットワークセンター（沼津NWC）－富士間で光ファイバーの経路の一部が切れてしまったことがあった。

RFの場合、一部の区間で異ルートを確保することが難しく、復旧までは一定の時間が必要だったという。

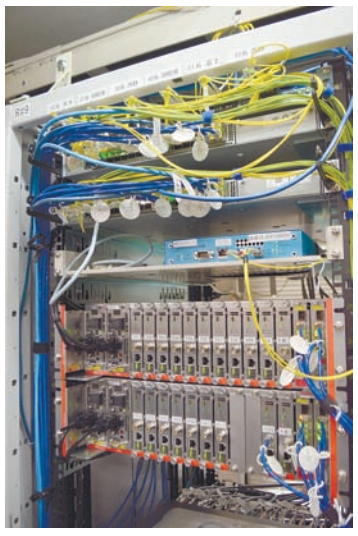
これがIPであれば、自社ネットワークでリングが組めるため、より高い冗長性が確保でき、安全性が高まる。こうした点もIP伝送化を選択した理由であった。

今回の更新では、グループ局への送信拠点となる上位局を、これまでの厚木から本社のある沼津NWCに移行。JDSからのIPによるCSデジタルの番組ソースを受け、自社局およびグループ4局にIPで配信する設備を新たに構築した。

CSデジタル用IP設備は富士通ネットワークソリューションズ（以下、富士通）を採用。RFのヘッドエンドに富士通および、ミハル通信を採用していたこともあり、コスト面も含めて判断したという。

ネットワークについては、グループのTOKAIコミュニケーションズが運用する10Gの光回線を活用。沼津NWCの設備も10G対応に更新した。

〈3面に続く〉



TOKAIケーブルが導入した富士通製3Uサブラック（GSRシリーズ）



テレテックは、トレーラー型中継車「107」のフル4K運用を始めた。スイッチャーに「XVS-9000」＝写真＝を搭載したほか、スイッチャーやルーターを制御監視するシステム「Cerebrum」を採用した　〈詳細2面〉

九州放送機器展

7月31日、8月1日開催

特集13―20面

本号の主な記事

［映画祭］
SKIPシティDシネマ国際映画祭
長編アニメ作品が最優秀賞 ‥‥ 3
［技術開発］
CATV事業者に有利なローカル
5G/通信業界は放送波視野に ‥ 5
関西放送機器展レポート ‥‥‥ 7
4K・8K映像技術展レポート ‥‥ 8
［大型映像］
クレーンゲーム事業の東洋/埼玉
の新店舗で大型映像導入 ‥‥‥ 10

映像新聞ウェブサイト
http://www.eizoshimbun.com
購読のお申し込みはこちらから

自社10G光回線で高い冗長性
コスト、柔軟性、安全面で利点

SWE DISH　緊急報道!!
SWE-DISH 小型衛星通信装置
世界シェア第1位（小型可搬部門）
■CCT120超小型衛星通信用アンテナ
■IATA対応ケースに収納可能
■車載専用バージョンもあり！
衛星通信車も設計から製造、車検登録まで一貫しておこないます。
エーティコミュニケーションズ株式会社 http://www.bizsat.jp
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-55-14
AT Communications k.k. TEL:03-5772-9125 FAX:03-5772-9126

イベント・映像機器レンタル業務に
特化したレンタルシステムは、
キッセイコムテックの
KAREN—CORE
詳細は以下をインターネット検索
「KAREN-CORE」
http://karen-core.com
KAREN-CORE

intel CORE i9 X-series
より迅速な導入。
最適化された設定。
CG/ 画像・動画編集に
高性能デスクトップPC
インテル® Core™ i9-9900X プロセッサーを採用。
臨場感あふれる4Kビジュアル、360度ビデオの素早い
編集など、最新のテクノロジーを体験できます。
DAIV-DQX760H1-M2SS 販売価格 399,800円（税別）
・Windows 10 Home 64ビット
・インテル® Core™ i9-9900X プロセッサー
（10コア/ 3.50GHz/ TB時最大4.40GHz/ 19.25MB スマートキャッシュ/ HT対応）
・32GB メモリ（8GB×4/ クアッドチャネル）
・256GB M.2 SSD×2（NVMe対応）
・NVIDIA® Quadro RTX™ 4000（8GB）
・800W 電源（80PLUS® TITANIUM）
・水冷CPUクーラー搭載
・1年間無償センドバック保証
・24時間365日電話サポート
※光学ドライブ非搭載モデルです。※液晶ディスプレイ・キーボード・マウスは別売です。※画像はイメージです。
安心の国内製造・国内サポート & 24時間365日電話サポート!
株式会社マウスコンピューター
〒103-6026
東京都中央区日本橋2-7-1 東京日本橋タワー26階
ご購入・ご相談はこちらまで 受付時間 9時～20時 03-6833-1010 DAIV 検索
法人のお客様のご購入・相談は 受付時間 月～金 9時～18時 土日祝 9時～20時 03-6739-3808 MousePro 検索
DAIV
DYNAMIC APPROACH IMAGERY OF VISUAL
飛び込め、感性の世界へ。
クリエイターには
「DAIV」
乃木坂46
齋藤 飛鳥

テレテック

トレーラー中継車をフル4K化
スイッチャーなどを集中制御
ワークフローの効率化を推進

テレテック（東京都港区）は、同社のトレーラー型中継車「107」をフル4K中継車に改修。5月下旬から運用を開始した。

107中継車はHD中継車として稼働してきたが、音声ミキサーにカルレック社「ARTEMIS Lite」（48入力16出力）を搭載しデジタルに対応するなど、この数年間、4K／60p運用に向けた更新を重ねてきた。



VEでシステム部課長の平井昭弘氏㊧と保坂氏


VE卓

今回の改修では、スイッチャーやルーターを制御および監視するためのシステムとして、AXON の「Cerebrum（セレブラム）」を採用し、制作ワークフローの整備を開始した。

セレブラムは、ルーターやスイッチャーを始めとした機器を1つのインタフェースから制御できる製品。入力ソースやタリー制御の情報を一元管理することで、中継現場で必要なワークフローを迅速に実現できる。国内では初導入となる。

技術営業本部長である保坂雅一取締役は、「ワークフローが複雑化するなか、限られた時間やリソースをより効率よく運用するには、今後こういった制御アプリケーションが重要となる」と説明する。

現在は運用と同時に、使い勝手や効率を上げるための調整を続けている。

また、スイッチャーにはソニー「XVS-9000」（3M/E、128入力）を搭載した。3GおよびI2G-SDIに対応し、ST 2110に基づく今後のIPに化にも、入力ボードを追加、変更することで備えていく。

なお3Gを運用するのは、「I2G-SDIは24pに対応していない。プロダクションとしては多様なフォーマットに対応できるよう備えておきたい」（保坂氏）からだという。

4Kについては、既存のSDIルーター「Sirius 830」にI2G-SDIボードを追加することで、外部からのI2G-SDI入出力に対応する。



107号車

カメラは既存のソニー「HDC-4300」4式に加え、今後、「HDC-3500」をバージョンアップして「HDC-5500」を導入する予定。4Kの液晶マスターモニター「BVM-HX310」も搭載している。

信号計測はリーダー電子のラスタライザー「LV7600」とし、最大20のソースをモニター5式に表示できる。コンバーター類には、ソニー「HDRC-4000」、アストロデザイン「SB-4027」「SB-4031」、朋栄「FA-9600」、グラスバレー「KudosProUHD1200」などを搭載している。

保坂氏は、「4Kの業務はまだ決して多くはないが、着実に準備を進めていきたい」と話している。

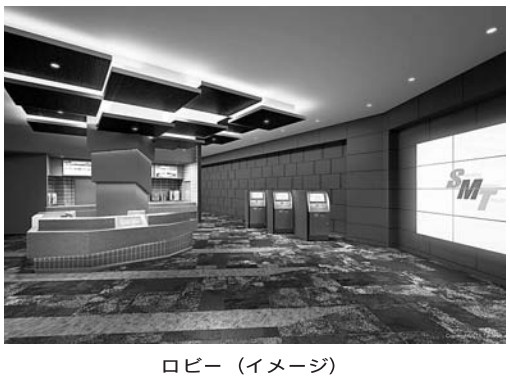
松竹マルチプレックスシアターズ

2館目のドルビーシネマ

10月に丸の内ピカデリーに開設

松竹マルチプレックスシアターズは、東京都千代田区の映画館「丸の内ピカデリー」に、都内初の「ドルビーシネマ」を10月4日にオープンする。


シアター（イメージ）


ロビー（イメージ）

オープニング作品は『ジョーカー』（配給ワーナー ブラザース ジャパン）となる。

ドルビーシネマは、映像技術「ドルビービジョン」と立体音響技術の「ドルビーアトモス」、映画観賞に適したシアターデザインが一体となって、作品の中にいるような没入感を感じさせる。

松竹マルチプレックスシアターズとしては、「MOVIXさいたま」（さいたま市）に続く2館目となる。

国内ではこれにより、T-JOY博多（福岡市）、梅田ブルク7（大阪市）、ミッドランドスクエアシネマ（名古屋市、今冬予定）の計5スクリーンの対応が決まっている。

メモリーテックHD
米アカデミー会員にアニメ編集者の西山茂氏が選出

メモリーテック・ホールディングスは、子会社のリアル・ティ社長である西山茂氏が、映画芸術科学アカデミーの会員に選出されたことを発表した。映画芸術科学アカデミーは、映画産業における芸術と科学の発展を図る団体。米アカデミー賞を主催している。

西山氏はタバックでアニメーションのエディターとして経験を積んだ後に独立。主な担当作品に『未来のミライ』『バケモノの子』『劇場版 あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。』がある。

会員への選出は、40年以上にわたる映画エディターとしての実績と技術力が評価された。業界の発展や表現の進歩への寄与も期待されている。



Dシネマ映画祭 国際コンペティション

長編アニメ作品が最優秀賞

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2019（主催＝埼玉県、川口市、SKIPシティ国際映画祭実行委員会、さいたま映像ボランティアの会／以下、Dシネマ祭）が7月13―21日の9日間、埼玉県川口市のSKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザ 映像ホールを中心に開催され、21日のクロージング・セレモニーで各部門の受賞作品が発表された。

難民家族描いた「ザ・タワー」

国際コンペティション『ザ・タワー』は、ノルウェー、フランス、スウェーデンの合作で77分の作品。監督はノルウェー出身のマッツ・グルードゥ氏。

映画は、パレスチナ人の少女ワルディを主人公に、レバノンの難民キャンプで暮らす4世代のパレスチナ人家族の悲哀、たくましさ、希望を描いている。

ワルディの大好きな曽祖父は1948年、イスラエル建国によって故郷を追われ（『アルナクバ』と呼ばれる）、それから70年間、難民キャンプで暮らしている。ここで子供を育て、いまでは家族4世代となった。

病を持つ曽祖父はある日、病院で、飲み続けていた薬の処方を断る。そして家に戻るとワルディに、いつも首に下げている故郷の家の鍵を渡した。曽祖父が故郷に戻るという希望を失ってしまったのではと心配になるワルディだったが、曽祖父はワルディに未来への希望を見出していた。



各賞受賞者と主催関係者

作品は、ワルディと曽祖父が触れ合う現在をクレイ・アニメーション、「アルナクバ」に始まる曽祖父の過去の記憶部分を2Dアニメーションで描いている。

製作期間は8年。監督自身が難民キャンプで過ごした経験をベースに製作されているという。

そのほか各賞は次のとおり。

【国際コンペティション】▽監督賞＝『イリーナ』（ブルガリア／96分／ナデジダ・コセバ監督）、『陰謀のデンマーク』（デンマーク／119分／ウラー・サリム監督）▽審査員特別賞＝『ミッドナイト・トラベラー』（米国、カタール、カナダ、英国／87分／ハサン・ファジリ監督）

【国内コンペティション】▽優秀作品賞（長編部門）＝『サクリファイス』（垂井濯監督）▽優秀作品賞（短編部門）＝『遠い光』（宇津野達哉監督）▽SKIPシティアワード＝『ミは未来のミ』（磯部鉄平監督）▽観客賞＝『歩けない僕らは』（佐藤快磨監督）

TOKAIケーブルがCSデジタルの受送信IP化

BS、高度BSのバックアップにも

RF回線不要でコスト削減

〈1面から続く〉

沼津NWCには、CSデジタルリマックス設備として、IPマルチキャスト信号の受送信が可能なSI／MUX／QAM変調、MPEG2エンコーダーなど各ユニット部で構成される富士通製3Uサブラック（GSRシリーズ）を導入。


大野氏


高橋氏

沼津NWCでは、JDSからのIP伝送（CSデジタルノンスクランブル）を直接受信し、自社でC―CAS（ケーブルCAS）を付けて配信。自社各局、およびグループ局ではこのIP信号をIP―QAM変調（NIT変換）できたことを挙げる。自社の拠点で受送信ができるため、緊急時などでより迅速な対応が図れる点がメリットだ。

またTOKAIケーブルでは、10GのネットワークをBSデジタル放送のトランスモジュレーション、およびパススルー、高度BSのトランスモジュレーションおよびパススルーのシグナルプロセッサーのバックアップにも利用する計画だ。

これまでバックアップは、各局のヘッドエンド間を同軸の連絡線で結び、RF信号を送っていた。TOKAIケーブルでは、既にミハル通信の高度BSのトランスモジュレーションおよびパススルーのシグナルプロセッサーを導入。今月から順次、IPのバックアップへ切り替えていく予定だ。

BSデジタル放送のトランスモジュレーション、およびパススルーのシグナルプロセッサーについても、9月までに切り替えていく予定。RFの回線が不要になるため、コスト削減にもつながると期待している。

また大野氏は、長距離伝送で信号の劣化が少ないこともIPの利点と話す。RFの場合、長距離伝送すると光の変調度の具合で波長にひずみが生じることがあるが、IPではそれがなく、安定した送受信ができるとした。

技術本部 技術部 設計積算課の高橋平知氏は、IP化によって省スペース化、省電力化も実現していると話す。従来の厚木のRF設備（富士通製6Uサブラックシリーズ）は、QAM復調部やPSI／SI変換部、自主放送系などで66U、検討段階のRF伝送で更新した場合（富士通製DSRシリーズ）は33Uになるのに対して、IP伝送のGSRシリーズでは13Uと、約1/5となる大幅な省スペース化が図れたという。

配線もRFシステムに比べて大幅に少なくなっており、この部分でも省スペース化を実感しているという。

電力については、厚木のシステムが最大約3470VA、RF伝送更新（富士通製DSRシリーズ）では最大約5130VAなのに対し、IP伝送のGSRシリーズは最大約2050VAと約半分となっている。

大野氏は今後のIP化について、「当社は10年以上にわたり、FTTHサービスを提供している。その中で、IPマルチキャスト、IPユニキャストの両方に対応できる映像配信サービスの環境を整えていきたい」と話す。

6月のケーブル技術ショーでは、パナソニックから、RFのSTBと同等の使い勝手を実現したIP―STBが参考出品されており、こうした機器の動向見据えつつ、顧客へのIP配信に向けて準備を進めていく方針だ。

省スペース化、省電力化も実現

12G-SDI 対応
モバイル中継装置
LU600 4K-SDI
LiveU
●4K-SDI 対応（12G-SDI/3G-SDI x4）
●最大 11 回線ボンディング（内 LTE x8 回線）
●高速起動（約 30sec）
●タッチパネル操作

LU300HEVC
●小型軽量設計
●最大 6 回線ボンディング（内 LTE x4 回線）
●高速起動（約 30sec）
●JOG コントローラ操作

三信データセンター稼働中
映像素材のアーカイブから配信サーバまで、
安心安全な次世代の映像ビジネスへ！
詳細は下記までお問い合わせください。
TEL：03-5484-7270　Mail：eizo-info@sanshin.co.jp
三信電気株式会社 ソリューション営業本部 映像システム営業部
http://www.sanshin.co.jp/business/solution/vd

IP LIVE UTILITY INTEGRATOR
HiTech Systems Limited
リモートプロダクションを実現する最も簡単なソリューション
※当社比
リモートサイト
オーディオ/2W・4Wインカム/タリー/GPIO/RS422・232
IPネットワーク
CCU 1
CCU 2
CCU 3
サブコントロール
フロント
リア
中継先にカメラを置いて、制作は遠隔地の放送局とIPで接続することができ、4K映像は最適なコーデックを使用して IP 伝送を行い、カメラへのタリー、インターカムや RS422 データ等を IP LIVE UTILITY INTEGRATOR で伝送できます。もはや、中継先に多くの機材を輸送するコストやスタッフの人件費を抑えることができる真のリモートプロダクションを実現することができます。
松田通商株式会社
▶http://mtc-japan.com
本　社　〒107-0062　東京都港区南青山3-3-15　MTCビル　Tel: 03(5413)4611　Fax: 03(5413)4618
大阪営業所　Tel:06 (6101) 2822　Fax: 06(6101) 2823　Mail: inquiry@mtc-japan.com

急変ドラマ戦線 下

ネット展開の時代

見逃しやSVODで新たな収入

膨らみ始めたビジネスの可能性

今や世帯視聴率は10%で及第点というドラマ界。番組の成否は単に世帯視聴率の多寡でなく、個人視聴率で若年層をどれだけ獲得しているかが大切になってきた。一方、全体を俯瞰すると、ドラマは、録画再生などのタイムシフト視聴率、ネット上での見逃し配信での視聴数、SVOD事業からの収入、さらに海外番販の売上なども勘案する、単にリアルタイムの数字だけで成否を決める時代ではなくなり始めている。ドラマの新たな可能性を探る。（次世代メディア研究所　鈴木祐司）

★世帯視聴率の減少

ドラマの世帯視聴率は、今世紀に入って徐々に下がり始めた。前号同欄で紹介したように、90年代に年間視聴率が25%を超えたフジテレビの月9は、今世紀に入って数字が落ち、16年からしばらく1けたが続いた。

HUT（総世帯視聴率）もこの20年で大きく下がっているので、ドラマだけの問題ではない。娯楽の多様化、インターネットの登場、ゲームやDVDの利用など、原因はいろいろあるが、2005年ごろからデジタル録画機が普及し、録画再生で見る人が増えたのも大きな要因だ。

例えば今年春クールでは、『インハンド』『ラジエーションハウス』で、ライブ視聴と録画再生視聴がほぼ拮抗した。ともに総合視聴率だと20%を超えている。20年前のヒットドラマと、見られた総量ではそん色がない。

今年1月クールの『3年A組』最終回は、ライブと録画再生を合わせた総合視聴率が24・3%に達した。これなら全盛期の月9と良い勝負だ。しかしビジネスモデルとしては、全盛期のような広告収入は見込めない。放送時に見られた総量で、収入の多寡が左右される仕組みだからである。

★録画再生視聴への対応

この問題は、昨春からスポット広告の取引指標変更で1つの区切りが付けられた。世帯視聴率を辞め、「個人ALL&P+C7」に改められたのである。

要は、個人視聴率を基準とし、番組のライブ視聴率に1週間分の広告部分の録画再生分を足し上げるようになった。

もっとも録画再生では、CMは5―7割がスキップされる。よってドラマのライブ視聴が10%・録画再生が10%で、総合視聴率が20%としても、新指標では15%に満たない広告収入にとどまる。

5年前の夏クール、GP帯（午後7―11時）放送の連続ドラマは今より本数が多かった。TBSとフジが週5本ずつ放送していたからだ。しかも単発の2時間ドラマが何本も放送されていた。

それが、ライブ視聴率が下がる中、両局は3本ずつドラマを減らした。2時間ドラマからも各局が撤退し、今春には遂にゼロとなった。広告収入だけでは、多くのドラマ枠を支えられなくなっていたのである。

広告収入だけでは〝枠〟支えきれず

★増える深夜ドラマ

一方この間に、深夜ドラマ（シンドラ）が活況を呈するようになっていく。各局が午後11時台以降にドラマ枠を新設し始めたのである。例えば日テレは、13年春から木曜ドラマ（読売テレビ制作）と火曜のシンドラを始めた。深夜のドラマ数ではテレビ朝日は、17年秋に「土曜ナイトドラマ」を置き、午後11時台が週2本体制となる。TBSも15年秋から2年間、「テッペン！」枠で「水ドラ!!」に挑戦した。そして16年春からは、毎日放送制作で「ドラマイズム」枠が始まっている。フジも17年秋から、火曜に「ブレイクマンデー24」を立ち上げていた。

最も積極的だったのはテレビ東京だ。05年には金曜24時に「ドラマ24」枠をスタートしていたが、16年春には「土曜ドラマ24」を2年放送。また17年春には金曜の「ドラマ24」に続く「ドラマ25」、そして「木ドラ25」も始めた。深夜のドラマ数では断トツとなっている。

ことで、単価も高く設定できているという。

日本テレビも、日曜午後10時半のドラマを中国に展開している。今春からの『あなたの番です』に至っては、海外番販に考慮して2クールドラマとした。国内でのリスクを承知で、海外事業を優先したのである。

ライブの視聴率だけで競うドラマの時代は終わった。タイムシフト、見逃しサービス、SVOD、そして海外番販と、ビジネスの可能性は膨らんでいる。結果として、刑事・医療・弁護士モノに集中しがちだったドラマは多様性を持ちはじめた。ドラマは新たな時代に向かおうとしている。

中国向けなど海外番組が拡大

★新時代への対応

各局がこぞって深夜に開発するのは、新時代への対応が目的だ。エッジが効いた新しい企画を開拓し、次世代のドラマクリエイターの発掘・育成を目指している。

また深夜ゆえ視聴率が低くても、見逃しサービスやSVODで新たな収入を得る可能性がある。例えばアプリのダウンロード数が2000万に迫っている民放公式テレビポータル「TVer」は、今年4―6月期の動画再生数が初めて3億回を超えた。連続ドラマの1話が百万回以上視聴されるケースが続出している。

仮に1時間ドラマに15秒の動画CMを10本付けたとしよう。1本4円で取引すれば、百万回視聴で4000万円の売上となる。現実には単価も動画CMの本数もそこまで確保できていないが、半額としても大きな収入となることは間違いない。

★ライツ収入が急増

ドラマは近年、海外への販売が盛んだ。特に人口が14億人を超える中国では、ネット配信事業者が日本のドラマを購入するケースが増えている。貨幣価値が低く番販がペイしなかった20年前とは異なり、今や巨大市場と化したのである。

例えば18年度のテレビ東京は、実写番組のライツ収入が67億円となっている。5年前と比べて70%以上の増加だ。潤沢なドラマの本数と、日本の放送と同時に中国で配信できるような体制としたことで、単価も高く設定できているという。

ドラマは見逃しサービス以外に、SVODでの展開もある。例えばシリーズのドラマが途中からブレークすると、初回から一気見するために、一定の月額を支払うSVODサービスに加入する人が増える。ここでも新たな収入が発生する。



過去×未来　人×映像

IMAGICA Lab.

映像でつなぐ、映像がつなぐ。人でつなぐ、人がつなぐ。

未来の映像コミュニケーションをデザインします

事業内容

撮影、映画・TV番組・CM・PR等の映像・音声編集、DCP（デジタルシネマパッケージ）作成、コンテンツ流通・配信サービス、フィルム現像・プリント、映像の修復・復元・保存サポート、デジタル合成・VFX・CG / グラフィックデザインの企画・制作、吹き替え・字幕・翻訳、映像コンテンツの企画制作、イベント等の企画制作、Web やモバイルなどを利用した広告・宣伝・プロモーションの企画制作、システムやアプリケーションの開発、保守運用など、各種映像技術サービス

IMAGICA
www.imagicalab.co.jp

2018年10月1日、（株）IMAGICA、（株）IMAGICA ウェスト、（株）IMAGICAイメージワークスは合併し、（株）IMAGICA Lab.となりました。

DECIMATOR DESIGN
3G-SDI/ HD-SDI/ SD-SDI/ HDMI/ Composit Video
Component Video/ AES/ Audio Meter
SDI ミニ コンバータ シリーズ



DMON　マルチビューワー

オーディオメータ監視付き、低価格マルチビューワー
4 入力 ～16 入力までラインナップ
入力：SDI　>　出力：SDI & HDMI

DMON-16S	価格￥250,000（税抜）
DMON-12S	価格￥220,000（税抜）
DMON-6S	価格￥ 98,000（税抜）
DMON-4S	価格￥ 78,000（税抜）
DMON-QUAD	価格￥ 48,000（税抜）

▸▸双方向◂◂　SDI / HDMI コンバータ

MD-LX　価格￥15,800（税抜）
SDI / HDMI 双方向コンバータ

・入力によって下記の動作モードに自動設定
SDI 入力　> SDI/HDMI 出力
HDMI 入力 > SDI/HDMI 出力
SDI 入力 > HDMI 出力 & HDMI 入力 > SDI 出力
・ポケットサイズ　60mm x 73.7mm x 23mm



TIDE　TAC Import, Distribution & Export
タックシステム株式会社IDE事業部
www.tacsystem.com
〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-5-1 Tel :03-3442-2955

九州放送機器展 出展
小間番号：J-81

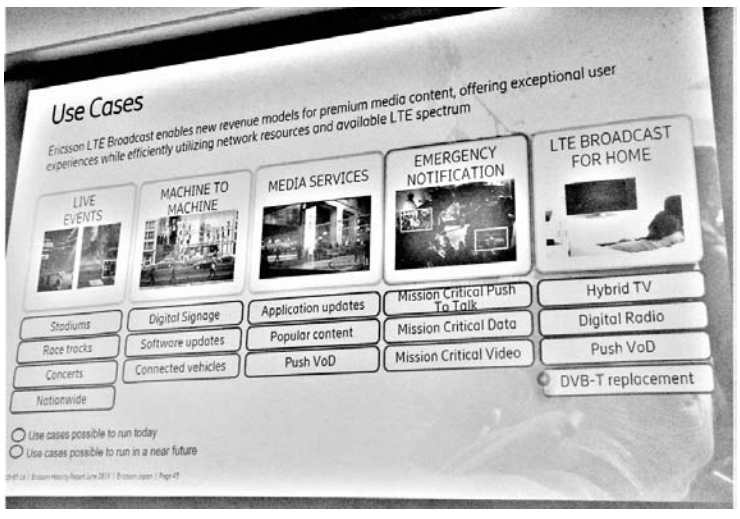
放送波を視野に入れた通信業界

ローカル5GはCATV事業者有利か

エリクソン日本法人が説明会開く

通信状況の分析と将来予測

通信機器大手のエリクソン（スウェーデン）は、最新の通信状況報告「モビリティレポート2019年6月版」を発表した（6月24日号既報）が、7月16日には、日本法人において報道関係者に向けての説明会が開かれた。ここで明らかになったのは、日本で制度化が進められているローカル5G（自営5G）が既存の地域BWA（Broadband Wireless Access）事業者に有利であること、通信業界はLTEや5Gを既存地上放送方式の置き換えとして視野に入れていること――であった。（杉沼浩司）



LTEブロードキャストの想定利用には、DVB-T置換が記されている＝右下（エリクソン「モビリティレポート」より）

★5Gが1/3超

エリクソンは、高精度の通信量分析と将来予測を記した「モビリティレポート」を発行している。通常、年2回の定期版と毎年2月のMWCに合わせて発行される「MWC特別版」がある。

6月に発表された最新の報告では、2018年における世界のモバイル契約数は79億、モバイルブロードバンド契約は60億、モバイル加入者数58億、スマートフォン加入数51億などの数値が報告されている。

6月24日号でも報告のとおり、5Gの普及速度　5Gが、通信量では35%を占める。5G利用者の4年に19億契約となった。通信量が突出することをそれまでの予想では15億加入であった。また、2　エリクソンの日本法人024年の通信量は月間　であるエリクソン・ジャパンは、7月16日に報道陣向けに説明会を実施し、同社の藤岡雅宣CTOがモビリティレポートの内容解説と状況報告をした。

★インド躍進の秘密

今回のレポートで目を引いたのは、インドの突出である。2018年のスマートフォン1台あたりの月間通信量は9・8ギガバイトと世界のどの地域よりも多くなった。

藤岡氏によると「LTE加入の増加、動画視聴習慣の浸透、データプランの充実」が背景にあるという。ブロードバンドが一気に花開いている。また、各世帯へのブロードバンド手段が携帯電話サービスであるが故に、データ量が多いのではないかとの見方も示された。



移動通信の状況を説明するエリクソン・ジャパンの藤岡雅宣CTO

インドはテレビ事業者が多く、テレビ放送で視聴率1%を取るのは容易ではない。このような背景の中、いかなる動画サービスが支持されるのだろうか。

★ドイツの自営5G

今回の会合では、モビリティレポートに記載されていない海外事例も報告された。その1つが、独e・GO社工場におけるプライベートLTEの敷設である。

プライベートLTEとは、特定の帯域でLTEの運用免許を移動通信事業者以外が取得して運用するものだ。一般には、企業が自社内や自社敷地内（自社運用地を含む）で運用するものを指す。これまで、炭鉱地下や、僻地の露天掘り炭鉱での例が知られていたが、工場での利用は先駆的な事例といえる。

e・GOは、独アーヘン市の工場で電気自動車を製造しているが、ここでの製造途中の車両管理、パレット（フォークリフト用荷台）管理に無線技術が使われている。

自動車製造では、製造段階からIoT通信装置を車内に置き、種々の情報を発信しながら製造していく手法が広がっているという。出来上がった車に無線機を付けるのではなく、無線機の周りに自動車を組み立てていく、との生産方法がとられる。

これまで、無線LANを使う例が多く、プライベートLTEは、まだ珍しい。8500平方メートルの敷地面積を持つ工場に、36のアンテナが設置されている。現時点でもかなりの低遅延と、ギガビット級の伝送速度を得ている。エリクソンは、8月末までに5G無線設備を導入するとのことで、さらなる拡張が期待される。

★ケーブル優位か

日本でも、5Gの自営設置が「ローカル5G」の名称で検討されている。ただし、藤岡氏によると現時点では「ノン・スタンドアローン（NSA）で実施することになる」という。これは、ビジネス上の問題を含んでいる。

NSAとは、5G実現方式の1つで、相手との通信設定などに4Gの電波を用いる。現在実用化されている5Gは、すべてNSA方式による。まずは、実現可能性を放送業界の視点で評価することが必要とみられる。

ATV事業者が圧倒的に有利となる。現在、日本では「地域のデジタルデバイド解消」との名目で地域ごとの無線ブロードバンド事業が認可されており、その多くを地域のCATV事業者が運用している。

地域BWAと称するこの事業は、「高度化方式」を採用していれば4Gとなる。現在、4G免許が出ているのは、無線通信事業者以外では地域BWA事業者となる。そしてローカル5G（NSA）のために4Gが必須となると、4G免許を既に持っている事業者が圧倒的に有利になる。

★放送波置換も

説明会では、オーストラリアのテルストラによるLTEブロードキャストの実現例も報告された（7月1日号既報）。ここで、レポートに含まれていないスライドも示され、エリクソンによるLTEブロードキャストの想定利用法（ユースケース）が明かされた。

この中で「ライブイベントの全国中継」と「家庭向けLTEブロードキャスト」は明らかに放送の範ちゅうとなる。特に、家庭向けの項目の中には「DVT-Tの置き換え」がうたわれており、携帯電話技術による放送が明確に提案されている。

4Gでは多数の基地局からの送信が必要だが、5Gとなると基地局から直径数十キロメートルの範囲に到達可能となり、現在の放送塔によるサービスと変わらない。加えて、難視聴地域には地元の基地局から低出力でサービスし、SFN（単一周波数ネットワーク）を形成すれば、電波の利用効率も維持できる。

DVB-T2の次の地上波方式として、5Gもしくは6G技術の導入が検討されてもおかしくない。

携帯事業者の免許と放送事業者の免許をいかに整合させるか、といった制度面の検討課題はある。しかし、社会に資するのであれば、制度調整は難しくない。まずは、実現可能性を放送業界の視点で評価することが必要とみられる。



Visual Research Inc.（VRI）日本総代理店　ジャパンマテリアル株式会社　東京都新宿区西新宿6-12-1 パークウェスト8F　TEL 03-5323-0820　http://www.jmgs.jp

ソリトンシステムズ
「スマテレ」クラウド版を発売
災害などの現場把握に

ソリトンシステムズは、携帯電話回線を使ったリアルタイム映像送信「Ｓｍａｒｔ－ｔｅｌｅｃａｓｔｅｒ Ｚａｏ－Ｓ」のクラウド版を開発。リアルタイム映像共有機能をもつ映像配信クラウドサービス「Ｚａｏ Ｃｌｏｕｄ Ｖｉｅｗ」として22日から提供を始めた。

複数拠点に設置されたカメラの映像をクラウドに送信し、ウェブブラウザーからクラウドにアクセスして映像を受信する。大規模イベントや災害の現場把握に有効で、複数個所で場所を問わずに視聴できる。カメラの場所や中継位置情報は地図上に表示可能。受信側から現場のカメラに対し音声で指示を伝えられ、カメラ側と受信側は双方向で音声通話できる。映像の記録も可能。送信およびに視聴ともに既存のＰＣやスマートフォンを利用でき、新たなハードウエアを導入せずに遠隔地間の情報共有やテレビ会議を実現できる。

送信機には、同社のＨ・２６５ハードウエアエンコーダー「Ｓｍａｒｔ－ｔｅｌｅｃａｓｔｅｒ Ｚａｏ」および、小型軽量の「Ｚａｏ－Ｓ」、アンドロイドスマートフォン「ｌｅｃａｓｔｅｒ Ｚａｏ Ａｎｄｒｏｉｄ」を利用プランはＺａｏ Ｐｒｅｍｉｕｍでのクラウド利用料金は月額３万円から。オンプレミス版でもこのサービスを利用できる。

使用できる。電波状況が不安定な環境でも安定した映像配信が可能。

ソニービジネスソリューションは、広島東洋カープが本拠地とする「ＭＡＺＤＡ Ｚｏｏｍ－Ｚｏｏｍ スタジアム広島」（広島市南区）に、遠隔地連携や顔認識機能を備えた映像送出システムを納入した。

「ファンや選手一人ひとりに寄り添う映像演出」をコンセプトに、全国のファンと球場をつなげるシステムを、場内演出の企画を含めて提案した。

納入したのは主に3種類。ライブ応援システムは、スタジアムと球場外を１０８０／６０ｐのビデオ会議システムで接続し、遠隔地での応援の様子を球場のメインモニターに映し出す。

ライブ応援に必要な機材は可搬型で省スペースのため、離島の小学校や病院などに設置することで、球場に来ることが難しいファンにも応援機会を提供できる。

ファン投影システムは、スタジアムに設置した２台の４Ｋ小型カメラ「ＨＤＣ－Ｐ５０」で観客席の様子を撮影し、メインモニターに投影する。顔認識機能と連携することで多数のファンの表情を素早く撮影し、メインモニター内に多分割映像として表示する。映像には、手を振る動きに合わせたアニメーションや枠デザインをＡＲで付加できる。試合ごとの演出を追加可能。

コンコースには、業務用ディスプレー「ブラビア」77台を設置し、試合の様子をリアルタイムで表示する。

ソニービジネスソリューションが納入
マツダ スタジアムの映像送出装置
ファンと球場の一体感を醸成

エディピットが発売
プロモニター向けバイアスライト
コントラストや色の見え方を改善

エディピットは、バイアスライト「ＭｅｄｉａＬｉｇｈｔ」（米Ｓｃｅｎｉｃ Ｌａｂｓ ＬＬＣ製）の最上位モデル「ＭｅｄｉａＬｉｇｈｔ Ｐｒｏ」を同社オンラインストアで発売した。１万５０００円（税別、送料含む）。



使用例㊤とMediaLight Pro本体㊦



バイアスライトはモニターの後ろに取り付けて周囲の壁を照らし、モニターのコントラストや色の見え方を改善する。眼の疲労も低減するという。

９９ＣＲＩと演色評価数が高い同製品は、均一なスペクトルパワー分布を必要とするカラリスト向けに開発された。

使用されているＣｏｌｏｒＧｒａｄｅ ＳＭＤ（ＬＥＤ）チップは、９９Ｒａ（ＴＬＣＩ ９９・３Ｑａ）と高い演色性を備える。自然光のように明るく知覚的なコントラスト感が得られる。Ｄ６５準拠。

オールブラックの硬質アルミチャンネルバー仕様で、ＬＥＤテープがプリインストールされている。３０型までの放送用モニターに適しており、背面がフラットでない場合も容易に取り付けられる。

アストロデザイン
田井えみ氏の８Ｋ映像に協力
内覧会で岩井俊二氏が解説

アストロデザインは、‥ｂｅａｕｔｅ〈エクスマードゥレクスが展開するボーテ〉」の最新商品である化粧品ブランド「Ｅｘ「８Ｋビジョンファンデーション」のプロモーション活動の一貫として制作された「８Ｋ×８Ｋコラボ映像」に、機材および技術協力で参加した。

この映像は、岩井俊二氏とＣｈｉｍａ氏、市川和則氏による音楽ユニット「ｉｋｉｒｅ」（いきれ）の楽曲『ｂｅａｕｔｉｆｕｌ』とのタイアップ。監督を田井えみ氏が務め、８Ｋカムコーダーによる撮影と編集、８Ｋシアターでの試写を経て完成した。６月の同社内覧会で初めて８Ｋ上映し、あわせて岩井俊二氏が技術セミナーに登壇した。

岩井氏は８Ｋで人物を撮ることについて「撮影はあまり寄り引きしたくなくなる」と話す。「ウエスト以上のショットで存在感が十分に出るため、解像度が上がると編集でアップを入れたくなくなる。カット割りをする気が起きない」と８Ｋ制作の感想を話した。

同映像は、同社本社の８Ｋシアターで９月まで見ることができる。



岩井氏㊨によるセミナー

池上通信機
医療用８Ｋカメラを技術展示
正方形のセンサーで小型化を実現

池上通信機は、７月に東京ビッグサイトで開催された医療や福祉の展示会「国際モダンホスピタルショウ２０１９」に出展。医療用および放送用カメラの開発で培った映像技術を活用した医療用８Ｋ解像度カメラ「ＭＫＣ－８２０ＮＰ」を技術展示した。

ＮＨＫエンジニアリングシステムと共同開発したもの。アスペクト比を１対１とするスクエアイメージング技術と有効対角長８・８ミリの小型センサーを用いることで、業界最小を実現した。ＣＵから全体像と拡大像の２画面を直接出力し、１台の８Ｋモニターに並べて表示することもできる。手持ちでも操作が可能な８Ｋ硬性内視鏡システムの実現を目指している。



展示の様子

医療現場では現在、内視鏡や顕微鏡を使った手術映像の高精細な表示が求められている。展示会場では、手術する部位を撮影する術野カメラの４Ｋ化も多く提案されていた。



「第4回関西放送機器展」開催

4K/IP対応製品が競演

関西で放送、映像、通信、コンテンツ制作に携わる人を対象にした、機器および関連サービスの総合展示会「第4回関西放送機器展」が7月10、11日、大阪南港ATCホールで開催された。出展社数は108社。2日間で前年より350人以上多い3380人が来場し、盛況となった。



パナソニックは、関西初出展となる4K/IPスイッチャーシステム「LPS Live Production Suite」や、文字起こしサービス「P-VoT」を実演。4.4Kセンサー搭載のスタジオカメラ「AK-UC4000」や12G-SDIスイッチャーも展示した



朋栄は、SDI/IP統合制御ソフトウエアや12Gスイッチャーなどの新製品に加え、4Kシステム構築に必要な朋栄エレテックスの4Kタイムラグチェッカー「EDD-5400」や映像音声遅延装置「EDA-2000」を披露



アスク／ディストームは、Softron社のインジェストシステム「MovieRecorder」やSKAARHOJ社のコントローラーなど多彩な製品を組み合わせ、NewTekのNDI対応ワークフローを実演した



メディア・リース ドローン事業部は、水中ドローンを充実。Youcan Robotics製「BW SPACE」は、4Kカメラと自動追尾機能搭載。大容量バッテリーで7時間の連続運用可能。最大推進速度は1.5m/s、最大潜水深度は100㍍



EUREKA(エウレカ)は、手のひらサイズ、プロペラガード付きマイクロドローンをデモ。無線電波で映像をモニターやゴーグルでリアルタイムに見るFPV（ファーストパーソンビュー）で飛行操作する。フルHD撮影対応



三信電気は、携帯回線ライブ中継システム「LiveU」を中心にブースを構成。2本の携帯回線とwifi、LANを任意に組み合わせる「LiveU Solo」や携帯端末を中継システムにできる「LU−Smart」などが注目された



マウスコンピューターは、4K8K対応高性能ワークステーションや15.6型モバイルPCなどの映像編集向け「Mouse Pro」「DAIV」各シリーズ、iiyamaの4Kディスプレーを展示

災害時におけるテレビ局の対応を考察

広島ホームテレビ技術局長が講演

西日本豪雨での実例報告

親局の停電で課題が明らかに

全国各地で記録的な豪雨や土砂災害が頻発すると同時に大規模地震への警戒が高まるなか、放送局の役割は重要度を増している。今回の関西放送機器展では、各社による最新機器の展示に加え、災害にどのように対応したのか実例が報告され、大勢の参加者が聞き入っていた。

◆◇★◇◆

広島ホームテレビ（HOME）の小平俊也技術局長は、特別講演「西日本豪雨におけるテレビ親局停電への対応と1年を経た現状」で登壇。2018年7月の西日本豪雨におけるテレビ親局停電への初動対応と、そこから明らかになった課題およびその検討状況について、在広テレビ5社（NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島）の取り組みを報告した。

西日本豪雨は、広島県内の5000以上の場所で土砂災害が発生し、130人を超える死者・行方不明者が出るなど、過去50年で最大の被害をもたらした。

広島市内の絵下山（えげさん）に建つ広島親局送信所は通常、県内の12万世帯に放送波を送信するために稼働しているが、土砂崩れによって電源が途絶えたことから「広島県内全波停波の恐れ」が迫っていた。

講演のなかで小平氏は状況を時系列で説明した。7月6日19時40分、広島市で大雨特別警報が発令され、19時42分には、絵下山で電柱が倒れたことによって広島局が停電し、非常用電源に切り替わった。

翌7日、設備の一応の無事が確認された後、全局がNHK広島局に集まり緊急協議を開催。復旧までには相当の時間がかかることから、現地につながる市道（出向路）の早期復旧を自治体に要請すること、商用電源の早期復旧を中国電力に要請することと、ヘリによるリース発電機と燃料の輸送を検討することを決定し、各社で作業を進めた。

小平氏は「非常用発電機の耐久性や連続運用に伴う故障、また3㌧に及ぶリース発電機を輸送するヘリコプターを確保できるのかが懸案事項だった」と説明。「発電機は推奨時間より長時間運転できることが見込まれたが、一刻も早い商用電源の復旧が望ましかったことだが、ヘリはこの規模のものが国内には8機しかない。事前調整により手配することができた」という。このとき、燃料のタイムリミットは11日19時だった。

特別講演の会場

その後、中国総合通信局との協議やさまざまな調整、手配を進行。9日には中国電力が電源を仮復旧し、18時12分に商用電源の使用を始めた。非常用発電機の運用は最終的に計72時間32分にのぼった。

小平氏は「復旧工事に当たり保安林などの許可申請の時間が必要だったが、広島県の協力により早急に対応することができた」とした。

その後の11日、不測の事態が起こることも考え当初予定していた空輸を実施。在広の全放送局・保守業者計35人が参加し、非常用電源の燃料と新たにリースした発電機の搬送を実施し、発電機の接続と地下タンクへの燃料補給を実施した。小平氏はここに至る過程で、放送事業者間の日常的な協力や情報共有、保守業者の協力による迅速な資材調達の重要さを再認識したという。

最後に、約1年が経過した出向路の様子を写真で紹介。「今後に備えて対策手法を多角的に検討し、今年度中に決定したい」とし、商用電源に異なるルートを作ることによる冗長化や、予備の非常用発電機の整備を考えていると話した。

さらに、CATV局と非常時の情報伝達について協定を結ぶことを検討中だと説明。既に他地域では同様の実績があり、これによってより多くの世帯に放送波を届けることが可能になるという。

現在、電柱の建て替えは終わったが出向路の復旧工事は続いている。小平氏は「正確性と速報性を高め、安全、安心に関する情報を継続的に提供できるよう、設備のいっそうの安定運用に努めていく」と締めくくった。

最新の撮影機材を一堂に

関西放送機器展の会場

カメラステージ

武蔵エスアイはスロー/リプレイコントローラーが追加されたSIMPLY LIVE製オールインワンプロダクション/審判システム「ViBox」を実演

さくら映機はリアルタイム4K HDRノンリニア編集システム「4K Prunus」の今年度リリース予定新機能のXDCAM部分修正のデモのほか、新製品「Prunus Note」(写真左)を出展

4K・8K映像技術展／映像伝送EXPOが開催

注目を浴びた4K制作のフロー

高品位コンテンツに関心集まる

「通信・放送Ｗｅｅｋ2019」（主催＝リード エグジビション ジャパン）として、「第2回 4K・8K映像技術展」および「第3回 映像伝送EXPO」が7月17―19日に東京都江東区の青海展示棟で開催された（併催イベント「第2回 5G／IoT通信展」「第19回 光通信技術展」）。「4K・8K映像技術展」では、高精細・高画質映像技術の現状と将来像を垣間見ることができた。

4K・8Kは放送分野だけでなく、医療、セキュリティー、製造業、スタジアム、イベント、スポーツなど、さまざまな産業分野での活用が期待されている。4K・8K映像技術展は、放送の枠を超えた展開を発掘する場として、昨年から始まった。そのため、映像伝送EXPOをはじめ通信系展示会との同時開催で構成されている。今年はさらに、放送から産業分野までトータルな展示が目に付いた。

全体的には、4K・8Kは放送・通信・産業分野ともに着実に普及期にあり、今後も社会システムとして重要な地位を占めることがこの展示会で垣間見えた。8Kでは、放送が始まり、イベントなどを中心に普及は進みつつあるものの、技術的な面などでブラッシュアップはさらに必要ということがうかがえる。

ソニーPCLは、今回唯一と言っていいポストプロダクションとして、4K／HDRマスター制作にフォーカスをあて、映像制作フローを実演。ユーザーをゲストに招いて制作例を披露するブース内セミナーも実施した。

デモでは、「HDR／SDRハイブリッドグレーディング」や、制作側の意図を損なわない4Kマスター制作向けHDR／SDR高品位相互変換の独自技術「ルミナス・トーンマッピング」といった、独自のポストプロダクションサービスを実演。多くの人を集めることとなった。アップコンバート技術である「RS＋」も実演された。

製品としては、国内の展示会では初披露となったソニー初の8Kテレビブラビア・マスターシリーズ「Z9G」を参考出展。この8KブラビアはCES2019（米国・ラスベガス）で発表。既に中国と欧米では発売されているが、日本国内での発売時期や価格などは未定という。ソニーのプレス資料によると、この85型は欧州で1万3999ポンド／1万6149ユーロ（約196万―198万円）、北米で1万2999ドル（約143万円）ソニーPCLは、これに見合う8Kコンテンツの充実も待たれるところだ。

一方、放送機器展では見ることがなかったベンダーから、映像向けの展示がされていることもこの展示会の特徴。映像伝送EXPOでは、企業間ファイル転送・共有サービスを手掛ける日本ワムネットが、高速大容量データ転送クラウドサービスをデモ。

テレコムサービス企業という三技協は、LED光で大容量データを無干渉・低遅延で無線伝送できる製品を、同じ会場内のアイベックステクノロジーのブースと無線通信して実演。このデモではアイベックスのエンコーダーが使われている。



エスシーは、HEVC(H.265)／H.264 4K 60p 低遅延エンコーダー/デコーダー「SC-4K265ED」や、スピーディーな顔認証/性別年齢識別システムとスマホHD伝送システムのコラボなどを実演



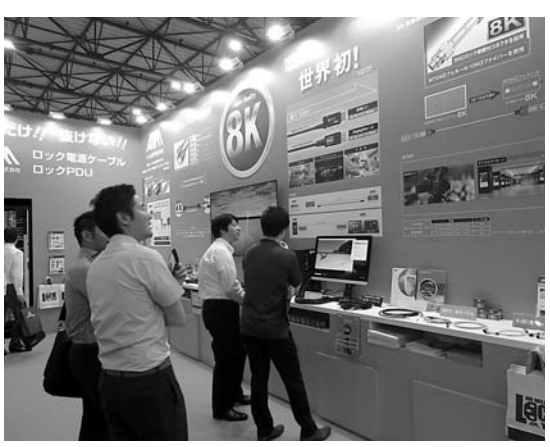
アストロデザインは8K 120p / 60p各撮影システムから8Kビデオサーバー、8K to HD切り出し、8K信号発生器、「Tamazone Workstation AW-8800」による8Kノンリニア編集までをデモ。8K顕微鏡も展示した



イメージニクスは同時開催の映像伝送EXPOに出展。同軸ケーブルで4K HDMIの長距離伝送が可能な信号同軸延長・送信器/受信器「CRO-UIL2T/CRO-UIL2R」による4K伝送デモを中心にした。最大210㍍対応



ビデオトロンが展示した12G対応マトリックススイッチャー「MTX-70Uシリーズ」は、4入力×2出力(以下同)8×8/16×8の3モデルを用意。同軸ケーブルを抜くとパネルが点滅するといった監視機能も実演した



エイム電子は8Kを前面に、HDMI2.1にて8K/30p4:4:4（48Gbps）対応するLaser Cableおよび、Display Port1.4にて8K/30p4:4:4（32.4Gbps）対応する光ケーブルのともに世界初という参考出品。両製品最大100㍍対応



ソニーPCL



ソシオネクストは、8K/60p HEVC/H.265エンコーダー/デコーダーで、8Kリアルタイム・ライブストリーミングをデモ。8Kを中心にしたラインアップでブースを構えた。



コネクテックアジア2019報告 ②　CA2019

衛星通信・衛星放送事業者が集結

宇宙ビジネス戦略を各社アピール

映像サービスの高解像度化に対応

6月18―20日にシンガポールで開かれた「コネクテックアジア2019（ConnecTechAsia 2019）」は、3つのイベントで構成するが、今回は「コミュニックアジア2019（CommunicAsia2019／以下CA2019）」についてレポートする。同展示会は、マリナ・ベイ・サンズ・コンベンションセンターの1階と3階を使って実施された。

（神谷直亮／衛星システム総研代表、メディア・ジャーナリスト）

CA2019の会場で最もにぎわったのは、衛星通信・衛星放送事業者が集結した1階であった。アジアで最大のコネクテックビジネスを展開している携帯電話事業者が出展を見送ったので、このような結果になったと言ってよい。

今回、衛星通信・衛星放送事業者として出展したのは、スカパーJSAT、ミアサット、アジアサット、KTグループ、チャイナサトコム、シンガテル・サテライト、APTサテライトなどアジア勢が主力であった。このほかに、グローバルなビジネスを展開するインマルサット、インテルサット、SESの3社、ロシアのGazprom、中東のスラーヤなどが出展し、総数22社に及んだ。特にアジアに関して言えば、インドネシアとインドを除くすべての事業者がブースを構えており、壮観の一言に尽きた。

★多彩な4K番組

アジアを代表するスカパーJSATは、今回も『Forerunner of 4K UHD（4K ウルトラHD放送の先駆者）』をキャッチコピーに掲げ、スカチャンの多彩な4K番組を上映して来場者を魅了した。ソニー製ではなく、LG電子製の80型4Kテレビを使用したのが昨年との違いだ。

ビジネス面では、最新鋭の「Horizons―3e」「JCSAT―18」衛星に加えて「スペース・インテリジェント・サービス」「HAPS（High Altitude Platform Service）」「ドローン」など、幅広い宇宙ビジネスへ進出する戦略をPRしていた。

意外だったのは、同社が出資しているカイメタ社製平面アンテナではなく、エーティコミュニケーションズが日本の販売代理店になっている可搬型「Satcube」アンテナをブースに飾っていた。

『アジアのウルトラHDパートナー』として売り込みを図っているマレーシアのミアサットは、ブースに5台の4Kテレビを並べて、5chの再生デモを大々的に展開した。内訳は、「FunBox 4K」「Love Nature 4K」「Insight 4K」「Fashion One 4K」「Travelxp 4K」である。

ブースの担当者によれば「5月から加わったTravelxp 4Kは、インドのセレブリティ・マネージメント社が制作している旅の専門チャンネルで、Rec・2020 10bit HLG HDRに基づく最高品質の4K番組」という。

配信用の衛星については、「Measat―3a、同3bを使用している。ビデオ配信の要の衛星なので、既に後継機としてMeasat―3dをエアバス社に発注した」と語っていた。

さらにミアサット社のブースでは「ヒマラヤTVの番組をネパールとアジアパシフィック地域に配信することになった」と発表していた。

★衛星通信サービス拡大

香港のアジアサットは、「ワーナーメディアのHDチャンネルのアジア太平洋地域における配信権を獲得した」と発表して注目を浴びた。配信するチャンネルは、CNN International、Cartoon Network、Boomerang、HBO HDなどで、使用する衛星は、「アジアサット7」とのことであった。


スカパーJSATは衛星を基軸にしながら、さらに幅広く宇宙ビジネスに進出する戦略をアピールした

説明員によれば「スカイライフのウルトラHD放送は、5chのままだが、加入者は100万を数える。特製のMVSATアンテナでVesselink」と名付けた衛星通信サービスを提案した。

アジアサットは、「アジアサット6」衛星で中東6カ所に設置済み」と語っていた。現在運用中の衛星については、「APStar―5／同6／同7／同9／同5C／同6C／同L」の7機を挙げていた。東経128・5度で運用している「APStar―L」は、ラオス向けの専用衛星である。

★最新鋭の衛星を製作

今年創立40周年を迎えたインマルサットは、「運用の基軸は、4機のGlobal Xpress衛星（GX―1／2／3／4）で、さらに6機の衛星を製作中」と語り、その勢いが止まらない雰囲気であった。製作中の衛星を聞くと、「GX―5、GX―6A、6B、GX―7、8、9」と答えていた。フランスのエアバス社にオーダーしたばかりの「GX―7、8、9」の3機については、「ダイナミックなビームフォーミングとフレキシブルなカバレージを実現する最新鋭の衛星になる」と強調していた。

インテルサットは、"Defy Limit of Content Distribution（コンテンツ配信の限界に挑もう）"を旗印に掲げて、37機の衛星によるグローバルなネットワークが構築できている同社の強みを強調した。配信しているチャンネル数については「HD チャンネル1200、SDが420」で、まだSDが圧倒的に多い。

衛星通信機器は、米カイメタ社の平面アンテナとカナダのDejero社製CellSat（携帯回線と衛星ネットワークを併用するライブ配信システム）を出展していた。

ルクセンブルクに本社を構えるSESは"Cloud―scale Connectivity"をキャッチフレーズに掲げて、同社の衛星で配信しているコンテンツの多さを前面に押し出していた。具体的な数字として「SDが5409、HDが2828、UHDが52、総数8289ch」と説明していた。



アジアのウルトラHDパートナーを自認するミアサットは、配信中の5chの4K番組を紹介

8Kについては「5月にトライアルを成功裏に終え、顧客の要望があればいつでも配信できる体制を整えた」と述べていた。ビジネス面では、子会社のSESネットワークス（中軌道周回衛星の運用・サービス会社）が提供する「m―Power」衛星とドイツに設立しているMX―1のビデオ制作・プレイアウト・サービスを熱心に売り込んでいた。

ロシアから出展したGazprom社は、6月24日に東経49度に打ち上げたばかりの「Yamal―601」衛星を主力にアピールした。中継器は「Cバンドを38台、Kaバンドを32台搭載している。Kaバンドは、HTS仕様で30Gbpsの容量を誇る」と強調した。

中東を代表して出展したスラーヤは、最新の「X5―Touch」について「アンドロイドOSを搭載した世界初の衛星携帯電話機。地上モードと衛星モードの変更、数々のグーグル・アプリケーションの検索ができるタッチスクリーンは、5・2型のフルHD LCD」とPRに余念がなかった。

GSMモードと測位システムについては「2G、3G、LTEをサポートしている。測位システムは、GPS、中国のBeiDou、ロシアのGLONASSに対応」と説明していた。

EXA RENTAL 4K
EXA INTERNATIONAL
中継、システム系機材を中心に、幅広いラインナップの機材をご用意。映像製作現場でのあらゆるニーズにお答えします。　※地方への発送も承ります。

12G/3G/HD ビデオスイッチャ
HVS-1200

4K/HD ビデオライタ
FVW-700-4K

12G-SDI対応
マルチパーパスシグナルプロセッサ
FA-9600

映像/音声遅延時間調整装置
EDA-1000

マルチビューワ
MV-4320

マルチビューワ
MV-1220

4Kモニタ・波形・レコーダー
BVM-X300 / LV5300 / KiPro ULTRA Plus
株式会社 エクサインターナショナル　〒107-0052 東京都港区赤坂2丁目16番9号
TEL：03-5575-3911 FAX：03-5575-3910 http://www.exa-int.co.jp/

クレーンゲーム事業展開する東洋

埼玉の新店舗で大型映像導入

埼玉県、群馬県を中心にクレーンゲーム事業を展開する東洋（埼玉県北本市）は、7月13日にクレーンゲームの設置台数でギネス世界記録（448台）を樹立した新店舗「エブリディとってき屋東京本店」を埼玉県八潮市にオープンした。この店舗では大型映像システムを使った空間演出が展開されている。

ジーベックスが施工担当

大型映像システムの施工はウシオ電機グループでデジタルシネマ事業を展開するジーベックス（東京都中央区）が担当した。店舗の入り口を入るとすぐに約300型の大型映像が来店客を出迎える。セイコーエプソン製の高輝度液晶プロジェクター（輝度1万2000ルーメン／レーザー使用 EB-L1500UH／超短焦点レンズ ELPX02）を1台設置して大画面をフロント投映するシステムだ。



店舗の入り口を入ると約300型の大型映像が来店客を出迎える（左からジーベックスの笛木啓美、傳法谷、三上の各氏）



ライティングモデル液晶プロジェクターEV-100を２台使った空間演出

ジーベックスの傳法谷社長は「当社としては、映画館以外でこのようなアミューズメント施設に大型映像を納入するケースは、それほど多くはなかった。今回を契機としてレジャー関連の市場においても拡販を図りたい」と話している。

入り口付近の300型大画面から右手のエントランスには、同じくエプソン製のライティングモデル液晶プロジェクター『EV-100』を2台使った空間演出が施されている。

ジーベックス営業部門システムソリューション担当シニアマネージャーの三上保雄氏は「この施設には3台のプロジェクターが導入されているが、それぞれにブライトサイン製のメディアプレーヤー『HD1024』が接続されており、3台で空間演出をする。現場の条件や予算面も考慮して適切なシステムを導入した」という。

東洋は、2011年11月に埼玉県行田市に「エブリディ行田店」を出店し、12年3月にはクレーンゲーム台数世界一（240台）として、当時のギネス記録認定を得た。新店舗の「エブリディとってき屋東京本店」ではこれを大きく更新する448台の設置となっている。

文教大学・高田哲雄教授

デジタルアートの可能性追求

東京都美術館で作品を展示

「第55回 記念国際公募亜細亜現代美術展」が東京都美術館（東京都台東区）で7月3―8日に開かれ、3D（立体視）デジタル映像やデジタルアートなどを研究する文教大学情報学部メディア表現学科の高田哲雄教授の作品がロビー階第1室に展示された。

高田教授は数十年間にわたり、「手描き絵画技法」と「デジタル表現技法」の両側面からの研究を並行してきた。昨年11月に幕張メッセで「Inter BEE 2018」と同時開催のデジタルコンテンツ協会主催「デジタルコンテンツEXPO 2018」会場において、文教大学ブースでCGの技法を駆使した裸眼3D立体映像の先端的コンテンツを発表している。

この展覧会では、それと対照的なもう一方の「古典的絵画評価」の中で、CGの可能性への挑戦をした。

高田教授は「さまざまなメディアに共通する仕組みが見えてきたような気がする。表現技術は、古典的な技法から始まり今日に至るまで、簡単に言えば『絵画→版画→印刷→映画→CG→VR』という変遷をたどっている。しかし、メディアとして進化しつつも肝心な〝感情移入〟は置き去りにされているともいえる」と話す。


高田教授によるデジタルアート作品の展示

例えば「手描きによる表現は、作者の感情移入が作品に現れやすく、自然と芸術としての評価を得やすい手段でもある。逆にデジタルな表現は作者自身の感情移入にも技術的な壁があり、結果として作品に対しても鑑賞者との間に壁が存在する。これらの壁を超えるには『メディア表現における技術的な解決』と『鑑賞者に与えるイメージ力』の両側面から問題を解決しなければならない」と説明する。

現在取り組んでいるテーマに関しては、「マウリッツ・エッシャーのような頭脳的トリックアートを目指すものではないが、表現技術とイメージ力の双方から追求した『不思議アート』を目指している」としている。

「確かにテクノロジーそのものはコンテンツ表現のプロセスに必要なものであるが、必ずしも鑑賞の対象物と成り得るものではないのかもしれない。最終的に観客や鑑賞者の前に現われるものは血の通った感情移入が可能で、詩的なものが望まれる」というのが高田教授の主張であった。

今年も11月13―15日に「デジタルコンテンツEXPO2019」が開催され、文教大学ブースに出展する予定。また11月23―29日に東京・神田駿河台のGallery蔵で「高田哲雄〝不思議アート展〟」の開催が予定されている。



4K
LIVE
PRODUCTION

撮影から中継、送出に至るまで、Ikegamiの放送機器が生み出す4K映像の
表現力と魅力をliveでつなげるSolutionを提供します。



4K/HD スタジオカメラ	4K/HD ポータブルカメラ	4K・IP伝送対応 デュアルモード・デジタルFPU装置	4K ライブプロダクション スイッチャ	4K/HD マルチフォーマットLCDモニタ
UHK-435	UHK-430	PF-900	MuPS-5000	HQLM series

池上通信機株式會社 〒146-8567 東京都大田区池上 5-6-16　www.ikegami.co.jp

お問い合わせは　●放送システム営業第1部 TEL:03-5748-2201 / TEL:03-5748-2221 ●大阪支店TEL:06-6389-4466 ●名古屋支店 TEL：052-705-6521 または右記営業所へ ●札幌TEL：011-231-8218 ●仙台TEL：022-292-2420 ●福岡TEL：092-451-2521

次世代 DISPLAY 最新動向161

中国製が台頭する大型LEDディスプレー
メイドインジャパンの存在感

日本国内で、主に広告媒体として運営されている街頭大型LEDビジョンの設置台数において、トップシェアにあった赤見電機が7月に経営破綻した。赤見電機が設置した大型ビジョンは2年前の2017年以前の段階で納入されたものは、ほぼすべてがメイドインジャパン製品であった。この日本製造にこだわってきた赤見電機の破綻で、日本製大型LEDビジョンは危機なのか、安価な中国製LEDビジョンに日本市場は占領されてしまうのでは――という意見が各方面から出ている。しかし現状を見る限りでは、筆者としての答えは「否」である。

（杉山平和・ディスプレー評論家）

●三菱電機

日本製大型LEDビジョンの代表格は、三菱電機の「オーロラビジョン」である。オーロラビジョンは、自発光方式のフルカラー大型ビジョンとして世界で初めての製品を、1979年に米国のドジャースタジアムに納入した実績を持つ。

オーロラビジョンの生産は、長崎県時津町の長崎製作所と、長崎県諫早市にある外部の協力企業で手掛けている。LED素子の調達先こそ、日亜化学からドイツの企業主体に数年前から変更しているが、メイドインジャパンにこだわりを持って三菱電機では40年間、長崎でオーロラビジョンを製造している。

東京競馬場、東京ドーム、阪神甲子園球場など日本を代表するスタジアムの大型LEDビジョンは、その多くが三菱電機製のオーロラビジョンである。また海外でもその大きさがギネス世界記録の認定されているUAEドバイのメイダン競馬場や、米ニューヨークのタイムズスクエア（一部）の大型LEDは、海外ブランド名「ダイヤモンドビジョン」で展開する三菱電機製品だ。

同じ三菱電機製品でも昨年3月に警視庁に監視制御システムとして導入された、1・5ミリピッチ超高精細LEDディスプレーなど、主に監視制御システム市場向けは、京都府長岡京市の京都製作所の製品である。今年も神奈川県警や熊本県警などに導入されているという。

特定市場の製品で真価発揮
ターゲット絞り技術力で勝負

●ソニー

ソニー製「Crystal LEDディスプレイシステム」（クリスタルLED）は、いま最も注目されているメイドインジャパンの大型LEDディスプレーである。

ソニーのクリスタルLEDは0・003平方ミリメートル（3平方ミクロン）のLEDを使用していることから、現時点での「マイクロLED」技術の粋を集めた製品ともいわれており、将来的には薄型テレビやスマートフォン（スマホ）などへの搭載も期待されている。


ソニーのクリスタルLEDは鹿児島で製造する（写真＝横浜市の資生堂研究所）

昨年1月から販売されているが、これまで川口市歴史自然資料館、NTTドコモショールーム、アップル新宿店、本田技術研究所、横浜の資生堂研究所などに導入。また、ソニーPCLが8K対応のシステムを各種イベントなどで運用している。

自動車会社では、新車などを発売する前に各方面からデザインを検討するが、このデザイン設計用途として従来から大型映像システムが利用されていた。これまではプロジェクターを使用するものが大半であったが、LEDは高価ではあるが、従来のプロジェクターのシステムもこの分野の用途では高価であり、クリスタルLEDの価格の高さが余り気にならない市場となっているのも導入が進んでいる要因の1つである。

このクリスタルLEDは、ソニーの半導体製造の拠点である鹿児島県霧島市を中心として国内生産している。

●パナソニック

来年に開催が近づいた東京五輪・パラリンピックの各屋外競技会場で、主に利用される予定のパナソニック製の大型LEDディスプレーもメイドインジャパン製品である。このパナソニック製の大型LEDディスプレーはピクセルピッチ8ミリメートルで、輝度は屋外使用にも最適な白表示において初期値5000カンデラ／平方メートルを実現する。

1ユニットあたりの外形寸法は幅640×高さ640×奥行116・7ミリメートル。画面寸法は幅640×高さ640ミリメートル。質量は約25キログラム。消費電力は約600ワットとなっている。

このLEDディスプレーは、以前からパナソニック製の大型LEDディスプレーを生産していた旧・鹿児島松下電子の流れをくむパナソニックのパネルLEDの採用が高まっている。

中でもソニーのクリスタルLEDは、コントラストの高さや色の再現性において、自動車会社からは高い評価を受けているという。クリスタルLEDの進化により

Panasonic

EVA 3.0 FIRMWARE



NEW EVA 3.0
FIRMWARE UPGRADE

4K60 10-BIT

EVA-LIVE

QUICK SWITCH

ULTIMATE CREATIVITY IN YOUR HANDS



メモリーカード・カメラレコーダー
AU-EVA1
本体希望小売価格 830,000円（税抜）
※レンズおよびマイクロホンは別売です。

https://pro-av.panasonic.net/jp/cinema_camera_varicam_eva/

COMPACT CINEMA CAMERA EVA1

「九州放送機器展2019」が開催

最新機材・技術が一堂に

福岡国際センター 7月31日から2日間

九州最大の映像・音響・照明・通信のプロフェッショナル展「九州放送機器展2019」（主催＝日本ポストプロダクション協会（JPPA））が7月31日、8月1日の2日間、福岡市博多区の福岡国際センターで開催される。今年で16回目を迎える九州放送機器展（愛称＝QBEE）は、155社を超えるメーカー・販売会社が最新の放送機器、ソフトウエアなどのデモを実施。各種セミナーや照明ワークショップなども実施する。入場は無料（事前登録制）。

【詳細＝www.q-kikiten.com】

展示会場の「映像ゾーン」では、IP関連機器やカメラ関連機器をはじめ各種伝送ソリューション、クラウドシステム、LEDやモニター、三脚、スタビライザー、ドローン関連機器、編集ソフト、スイッチャー、テロッパー、光ケーブル、ラックなどを各社が展示。放送局、ポストプロダクション、プリプロダクション業務を担う映像制作者向けの製品がそろう。

「オーディオゾーン」には、DAW、マイクロホン、各種収録機器、関連ソフトウエアなど、プロからハイアマチュアまでを網羅したオーディオ機器を集約している。

「照明ゾーン」では、カメラ用照明機器やフィルター、スタジオ照明器具、クレーンなどのプロフェッショナル照明機器が展示される。

「スピーカーヘッドホン試聴会コーナー」は、十数台の小型SRスピーカーや、有名ブランドのプロ用ヘッドホンの聴き比べが自由にできる。

当日出展しているメーカーや販社における恒例の「アウトレット販売コーナー」も設ける。

開場時間は7月31日が10―18時、8月1日が10時―17時。

併せて主催者および出展各社によるセミナーも実施する。

特集 九州放送機器展 出展概要 1

各社から4K映像制作システム

アストロデザイン



HD-1679

アストロデザインは、4K映像制作機器および「Body Camera」を出展する。

4K DSK（ダウンストリームキーヤー）「HD-1679」は、4K2系統のライン入力に対し、最大8系統の4K2スーパー入力をキー合成し出力する。ライン2出力のほか、スーパーインポーズを確認するプレビュー出力を備える。スーパー同士を合成し出力するコンバイナー装置（USK）としても使用可能。オプションでHDスーパーのアップコンバートや色域・EOTF／OETF変換、プレビュー出力のダウンコンバートにも対応する。

24型HDR対応4Kモニター「OBM-U24O」は、3G／6G／12G-SDI入力、HDR波形・ベクトルを表示。

Body Camera「ACW-P1000」は、4G LTE／3G用SIMを内蔵し、遠隔地の映像をリアルタイムでモニタリングする軽量・コンパクトなウェアラブルカメラ。撮影現場からアップロードされた映像／音声はクラウドサーバー上で管理。中継現場やイベント運営、遠隔設備のメンテナンスなどで活用できる。

イメージニクス



HEV-U41

イメージニクスは、4入力1出力の4KHDMIマルチビューワー「HEV-U41」を出展。4K映像の中でマルチビュー合成し、自在にレイアウト、シームレス切り替えができる。

同軸ケーブル1本で4K60p4：4：4カラー映像の長尺伝送が可能なHDMI同軸伝送器「CRO-UIL2T／R」は、ダウンコンバート機能を含め実演する。

HDMI CAT5e／6伝送コーナーでは、自動切り替え機能付きのHD BaseT送信器「ASE-C21」を展示。実際に自動切り替えの動作確認が可能。

また、Cat5e／6出力4分配器「HCE-104TX」のHUB機能を使用して、映像出力にイーサネット重畳し、HD-BaseT入力付きモニターの電源制御をデモする。

そのほか、壁プレート式送信機「HCE-CP1ATX」、PoHインジェクター「PU-PH1」などを出展。

エヌ・イー・ピー



Li-D98M-S

エヌ・イー・ピーは、バッテリー関係・レインカバー・LEDライトなど、放送機器のアクセサリーを中心に展示する。

今回の目玉商品として、従来比47%サイズダウンしたスーパーミニVマウントバッテリーを発表。同バッテリーは、120ワットまでの高負荷にも対応している。小型なので、LEDライトやモニターの背面マウント、ワイヤレスカメラのバックパックやミキサーバッグに収納しやすい。

また、同電池セルを使用したソニー（L）シリーズバッテリーも初展示する。スーパーミニVマウント「Li-D98M-S」で使用の電池セルを搭載した高容量・高負荷対応バッテリー。高負荷出力対応なのでさまざまな機器に使用が可能。

モニターなどを載せる超強力アーム、リモコンで調光・調色可能なLEDライト、LCDモニターを直視できるレインカバー、カーボン製ブームポールなど新商品も展示する。

新技術！地デジ電波→スマホへ通知

＜革新的な防災・減災ソリューション＞

正しい防災情報を確実に配信

ナローキャスト放送

放送波で社会システムと連携

災害時　平常時

自治体と連携中！

［テレビ信州］［長野県域］

［地デジ電波］［BLE/LPWA］

九州放送機器展 初出展　ブース番号【 D-37 】

株式会社アトラクター　連絡先 narrowcast@att-star.co.jp

SAKURA EiKi

直感的な操作感、高い追従性、高速レスポンス、究極の 4K HDR 編集

4K Prunus



・解像度を意識させない操作感と抜群のレスポンス性能
・HDR に対応したカラーコレクションツールを搭載
・プロジェクトで設定 / 変更した色情報に自動演算し変換可能
・自社開発 12G-SDI ボード（HW エンコーダ）で高速エクスポート
・ワークステーション 1 台で 4K60p の追っかけ編集
・完パケ MXF の一部を修正する部分修正機能で圧倒的な時間短縮

九州放送機器展 2019 に出展いたします

福岡国際センター
7/31（水）- 8/1（木）　ブース No. A-4

さくら映機株式会社　www.sakuraeiki.co.jp
〒107-0052 東京都港区赤坂 4-15-1 赤坂ガーデンシティ 3F
TEL: 03-6427-3971　FAX: 03-6427-3972

特集 九州放送機器展 出展概要 2

放送業務のプロセス改革目指す

パナソニック

パナソニックは、「世の中が便利になればなるほど、支える現場の課題は増える」という問題に対応し、『現場プロセスイノベーション』をテーマに放送業務のプロセス改革を目指す。

4K8K映像システムの中核となる「8K ROI（切り出し）カメラシステム」は、高精細の8Kマルチパーパスカメラ新製品「AK-SHB800」を用いてライブ収録やスポーツ中継を効率化・省力化する。同機は、8Kフルサイズ CMOSイメージセンサーを搭載し、EFレンズマウントを採用した小型軽量のボックスタイプカメラ。イメージプロセッシングユニットとフレーミング制御ソフトウエアをインストールしたPCと組み合わせ、8K ROIカメラシステムを構成する。

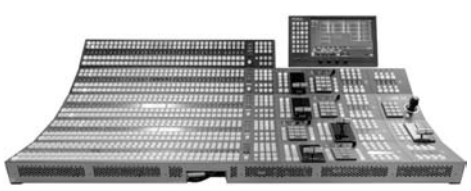


イメージプロセッシングユニットAK-SHU800(右上)、8Kマルチパーパスカメラ AK-SHB800GJ(左下)

朋栄

朋栄は、スタジオサブ関連製品やSDI／IP統合制御環境、字幕制作対応製品、簡易中継ソリューションなど、最新製品およびソリューションを披露する。

スタジオサブコーナーでは、4K対応ビデオスイッチャー「HVS-2000」を展示。ライブイベントから中継車、スタジオサブまでさまざまなシーンで活用できる24入力18出力のビデオスイッチャー。最大48入力18出力、または40入力22出力まで拡張可能。各M／EにキーヤーとFLEX aKEYをそれぞれ4つ搭載し、多彩な演出に対応。最大12入力の4Kスイッチャーとしても活用できる。



スイッチャー「HVS-2000」

マルチチャネルビデオサーバー「MBP-100OVSシリーズ」、12G-SDI対応キャラクタージェネレーター「VWS-1000シリーズ」も展示する。

バーチャルシステムコーナーでは、バーチャルスタジオ／リアルタイムCGシステム「VRCAM-NX」をデモ。バーチャルスタジオ運用とリアルタイムCG（RCG）運用の両方を実現する。

バーチャル運用では4K対応ソフトウエアクロマキーを利用可能にし、レイヤー機能も新搭載した。

このほか、「HDR／SDRサイマル送出」、「SDI／IP統合環境」、「字幕制作」（朋栄IBE製品）、「簡易中継」（カナダDejero社／輸入取扱製品）のコーナーを設け、最新機器・技術を訴求する。

さらに音声認識／処理技術を活用した文字起こしサービス「P-VoT」（β版）は、放送番組原稿の作成業務などを40％効率化し、放送業界の働き方改革に貢献する。

次世代カメラシリーズの1号機

池上通信機

池上通信機は、新製品の2/3型4K CMOS3板式カメラシステム「UHK-430」を主力に放送・映像制作対応の各種製品を出展する。

UHK-430は、次世代カメラシリーズ「UHK-430」の最初のラインアップとして誕生。カメラヘッドとCCU間の4K非圧縮信号が伝送可能となっている。



UHK-430

そのほかの主な展示製品は次のとおり。

［カメラ］4K／HDマルチパーパスカメラ「UHL-43」

［スイッチャー］4K 12G-SDIマルチプラットフォームスイッチャー「MuPS-5000 Series-OnePackII Series」

［モニター］4K／HDマルチフォーマットLCDマスターモニター「HQLM-3125X」、マルチフォーマットLCDカラーモニター「HLM-60 Series（HDRライセンス）」

［FPU］4K・IP伝送対応デュアルモード・デジタルFPU装置「PF-900」、QAM／OFDM両方式対応7GHz帯超小型FPU送信装置「PP-97送信機」

［ビデオ編集ソフトウエア］ノンリニア編集システム「Media Composer」

さくら映機

さくら映機は、4K60p HDR対応リアルタイムノンリニア編集システム「4K Prunus」を出展する。

即座に編集が始められるダイレクト編集のフローや、解像度を意識させない操作感とレスポンス性、編集時間の短縮に貢献する部分修正などの独自機能を搭載。編集室にとどまらない4K制作環境を提案する。



4K Prunus

また今年度リリースのアップデータにより、XDCAM部分修正を含むさまざまな機能追加を予定しており、その一部を先行公開する。

主な特徴は、①HDRに対応したカラーコレクションツールを搭載、②プロジェクトで設定／変更した色情報に自動演算し変換可能、③自社開発12G-SDIボード（HWエンコーダー）による高速エクスポート、④ワークステーション1台で4K60pの追っかけ編集、⑤完パケMXFの一部を修正する部分修正機能で圧倒的な時間短縮――などとなっている。

株式会社ストロベリーメディアアーツ

高精細 LED

Black Hole 4.6Bio

Black SMD LED を搭載した屋外対応型

■屋外対応型
防塵・防滴なので屋外設置にも対応しています。

■高精細 LED を採用
ドットピッチ4.6mm の視認性の高い高精細 LED を採用しています。

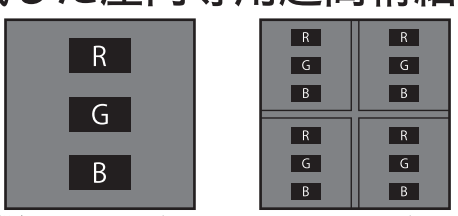
■フルサイズとハーフサイズの混合仕様が可能
フルサイズとハーフサイズを組み合わせて使用することが可能です。



Black Hole 1.9Bi

4in1Black SMDを搭載した屋内専用超高精細LED

■超高精細向け 4in1Black SMD 搭載
従来のSMD×4個を1パッケージ化し、高密度に実装することで超高精細化を実現しました。



従来の Black SMD 型 LED

4in1Black SMD 型 LED



タイル寸法は 16：9 です。

株式会社 SMA ホールディングス
販売：株式会社ストロベリーメディアアーツ
開発：株式会社エス・エム・エイ
制作：SMAクリエイティブ
本社　〒751-0806　山口県下関市一の宮町3-11-4
TEL:083-263-3040　FAX:083-263-3041
http://www.smacom.jp

東京　〒150-0011　東京都渋谷区東1-27-10東海ビル8F
TEL:03-6712-6150　FAX:03-6712-6151
美女木　〒335-0031　埼玉県戸田市美女木2-26-5
TEL:048-487-8668　FAX:048-487-8669
名古屋　〒460-0008　愛知県名古屋市中区栄3-2-3-4F
TEL:052-269-8668　FAX:052-269-8669
大阪　〒564-0043　大阪府吹田市南吹田1-21-5
TEL:06-6318-1551　FAX:06-6318-1552
広島　〒731-0144　広島県広島市安佐南区高取北2-18-14
TEL&FAX:082-299-7040
松山　〒790-0043　愛媛県松山市保免3-2-53
TEL&FAX:089-971-1280
福岡　〒810-0045　福岡県福岡市中央区草香江2-10-21
TEL:092-720-4221　FAX:092-720-4222
鹿児島　〒890-0024　鹿児島県鹿児島市明和2-17-2
TEL&FAX:099-296-8046
沖縄支社　〒900-0006　沖縄県那覇市おもろまち4-11-1-401
TEL&FAX:098-869-4315

特集 九州放送機器展 出展概要 3

小型・軽量なビデオチェッカー

ビデオトロン

ビデオトロンは、新製品や新機能について説明し、より安心できるシステム構築、設備運用をサポートする。

3G対応「VC−203G」は、信号発生機を内蔵しており、中継やロケ現場など本体のみで映像と音声をモニターできる小型・軽量な液晶ビデオチェッカー。本体の電源はバッテリーホルダーを使用し、単3形のアルカリ乾電池やニッケル水素電池による運用が可能。

また、①エラー監視機能にフリーズ検出／黒検出／無音検出、②エラーをログに残しRS−232CにてエクスポートもHDMI／DVI to SDIコンバーター「HMS−70」は、HDMI信号を3G／HD／SD−SDI信号に変換。フレームシンクロナイザー内蔵でSDI出力をリファレンス信号に同期。入力信号断・未対応フォーマット入力時には筐体からアラームを発報。動作ログの確認・取得にも対応する。

また、HDMIのエンベデッド音声8ch、AES／EBU音声2chをSDIに重畳。音声レベル調整、遅延量調整機能を搭載している。


VC-203G


ハイエースSNG中継車

エーティコミュニケーションズ

エーティコミュニケーションズは、映像音声データなど緊急中継にも威力を発揮する、業界最小クラス小型衛星アンテナ「Satcube（サットキューブ）」を展示。同機はラップトップPCサイズで重量8㌔㌘を実現している。

そのほか、ハイエースベースのSNG中継車や、機動性に優れた軽量の可搬型衛星アンテナ「QCT90」、「CCT120」など出展する。

アスク／ディストーム

アスク／ディストームは共同ブースで、米NewTekが推進する最新のNDIに対応したライブ映像プロダクション製品および周辺機器やソフトウエアを展示。ネットワークベースの「NDIライブイベントソリューション」として提案する。


tricasterTC1

主な出展製品は、ライブ映像プロダクションシステム「TriCaster TC1」と新製品「TriCaster TC410 Plus」、スロー／リプレイシステム「3Play 3P1」、業務用SkypeTXを利用した相互通信システム「TalkShow」、NDI｜HX対応PTZカメラ「NDI PTZ Camera」、NDIコンバーター「Connect Spark」。

また、NDIパートナー製品として、Softron社の収録・追っかけ編集システム「OnTheAir」も展示する。

ジャパンマテリアル

ジャパンマテリアルは、サイネージプレーヤー、議会中継システム、マルチフォーマットディスクレコーダー、伝送ビデオウォールシステムなどを出展する。

サイネージプレーヤー「BrightSign」製品コーナーでは、デジタルサイネージのマーケットリーダー「BrightSignシリーズ4」、RFID・モーションセンサーなど新オプション製品を披露する。


BrightSignシリーズ

「Matrox製品&議会中継・映像ストリーミングサーバーコーナー」においては、直感的な簡単操作が可能な議会中継システム「Forum Assist」、教育向け録画配信ソリューション「Streaming Assist」、SRT配信／4K対応マルチチャンネルエンコーダー「Matrox Maevex6150」、4Kリモートプロダクション・WEB配信用エンコーダー（12G−SDI／ST2110）「Matrox Monarch EDGE」をそろえる。

「放送グラフィックス・ソリューションVRi製品コーナー」では、マルチコーデック録画再生機「D−StreamLT」、リアルタイム2Dキャラクタージェネレーター「Visual CG」を展示。

「ビデオプロセッサーGeoBox製品コーナー」では、幾何学補正新機能を追加したエッジブレンディングプロセッサーについて、直角コーナーへのマッピングを手軽に実現するコーナー補正などの機能を説明する。

embrionix SFPベースIPゲートウェイ
12G/3G/HD-SDI 入出力
Video over IP
・SMPTE2022-6/7
・SMPTE2110 (TR03)
・PTP・NMOS/Ember
TAG IPマルチビューワ
Video over IP ST2022,2110 H.264/265, HLS, HEVC
Video over IP ST2022,2110 H.264/265, HLS, HEVC
デジキャス合同会社
東京都千代田区
岩本町2-13-6
TEL 050-3635-5618
www.digicas.jp
DIGIcas

NEW Shotoku's Camera Support Solution
SX200
ENG用三脚システム
TRUEBALANCE
■ 無段階完全バランス
カウンターバランスは独自の完全バランス機構 TRUEBALANCE を搭載
VISCAM
■ 無段階粘性抵抗式ドラッグ
大型雲台で定評のある VISCAMテクノロジーは特殊シリコングリスを使用することで温度変化による影響がなく、安定した滑らかな操作可能
マグネシウム合金を用いた雲台とカーボンファイバー製の三脚で
軽量で強靭なボディーを実現しました。
SHOTOKU BROADCAST SYSTEMS
株式会社 昭特製作所
044-812-0931
www.shotoku.tv

映像/音響機器レンタル・各種メディア販売
《新規レンタル開始 !!》
ソニー/HDポータブルカメラ、カメラコントロールユニット
【HDC-3100/T】
【HDCU-3100/T】
※長期ご使用、レギュラーご使用はご相談下さい。
機材一式はもちろんスタッフもお気軽にご用命下さい。
01TECH(ゼロワンテック)/ ジンバル専用 軽量クレーン
【QUICKRANE (QKC505)】
最大高5m。コンパクトで他に類を見ない軽量クレーン。
ベースアーム(約5kg)にカーボンパイプ1.5m(460g)を
はめ込むだけの素早いセッティングが可能です。
付属のRONIN-Sへの搭載可能重量は約1.5kgで、
パン/チルト/ロールの制御が可能。詳しくはお問い合せ下さい。
撮影機材レンタル
《Head office》
Osaka
Tel:06-6202-1247
《Branch office》
Fukuoka
Tel:092-415-1247
《Group company》
Hiroshima
Tel:082-296-1247
イングス JBS は西日本 3 拠点
スポーツ /LIVE 中継 , 各種イベントビジョン出し
TV 番組や CM, 企業 VP にも対応。
機材一式、スタッフもお気軽にお問い合わせ下さい。
ings-jbs
株式会社イングス JBS
www.ings-jbs.jp


Cross Imaging
緊急地震速報、防災情報、気象情報の
リーディング・システム・インテグレーター
HDSDI ボード、ドライバ、
アプリケーションソフトウェア等、
すべて自社で、研究・開発・製造を
おこなっております。
高速且つ安定した稼働を実現した
画期的なシステムです。
最大震度
7
風と雨の予想
世界の天気
北 京
ソウル
香 港
グアム
シンガポール
九州最大の映像・音響・照明・通信のプロフェッショナル展
九州放送機器展 2019
Qsyu Broadcast equipment Exhibition
7/31(水)8/1(木)
7月31日(水) 開場10:00～閉場18:00
8月 1日(木) 開場10:00～閉場17:00
福岡国際センター
福岡市博多区築港本町2-2
ブースNo.D-38
2019年 出展予定展示会
Inter BEE 2019
【11/13(水)～11/15(金)】
クロスイメージング株式会社
〒141-0031 東京都品川区西五反田1-5-1 A-PLACE 五反田駅前 9F
TEL. 03-6417-9190(代表) FAX. 03-6417-9195
http://crossimaging.jp/


九州放送機器展 2019
アスク／ディストーム ブース I-77
NDIライブイベントソリューション
NDI対応ライブ映像プロダクション製品、周辺機器、ソフトウェアを展示
ライブ映像プロダクションシステム: TriCaster TC1、TriCaster TC410 Plus (新製品)
スロー&リプレイシステム: 3Play 3P1
業務用SkypeTX利用した相互通信システム: TalkShow
NDI|HX対応PTZカメラ: NDI PTZ Camera
NDIコンバーター: Connect Spark
NDIパートナー製品
NewTek

特集 九州放送機器展 出展概要 4

4K/12G-SDI対応の製品を強化

AI／IP／クラウドの活用

ソニー

ソニーは、NABショー2019に出展した映像制作機器や、AI／IP／クラウドを活用した新たな映像ソリューションなど多岐にわたる新製品を出展する。

「IP Liveリモートプロダクション」のデモでは、九州朝日放送（KBC）の協力で、機器展会場に設置したIP Live機材とKBCスタジオをネットワークで接続し、IP Liveプロダクションシステムによるリモートプロダクションのデモを実施する。

「Crystal LED」ディスプレイシステム」も別途展示予定。サイズは、約2・4㍍×縦約1・3㍍の約110型（16対9）。

展示コーナーでは、カメラスタジオ（HDC-5500／P50など）、小規模ライブシステム（BRC-X400［参考出展］など）、プロオーディオ（新UWP-Dシリーズ）、Media Backbone報道ソリューション、アーカイブ（オプティカルディスク・アーカイブ第2世代、アーカイブメディア）、カムコーダーハンズオン（PXW-Z280／Z190など）、モニター（BVM-HX310・LMD-Aシリーズ HDR対応など）、シンプル生中継クラウドソリューション、SNSリアルタイム速報サービス「Spectee」、AIアナウンサー「荒木ゆい」などを披露する。


HDC-5500

スチューダー・ジャパン ブロードキャスト

スチューダー・ジャパンブロードキャストは、同社が取り扱うデジタルミキシングコンソール「OnAir1500」、「OnAir1500」［LAWO］IPコアプラットフォーム「V_Matrix」、スタジオ統合コントロールシステム「VSM」、マルチビューワーコントローラー「the WALL」［グラスバレー］デジタルレコーダー／プレーヤー「T2 4K ELITE」［NTエレクトロニクス］HEVC IPエンコーダー・デコーダー「MV7000」［AVID］スポーツ中継システム「FastServe LiveEdit」［NTテクノクロス］高信頼・高精細映像伝送ソリューション


グラスバレー「T2 4K ELITE」

グラスバレー、LAWO、NTTエレクトロニクス、アビッド、NTテクノクロスの映像機器などを中心として展示・提案する。

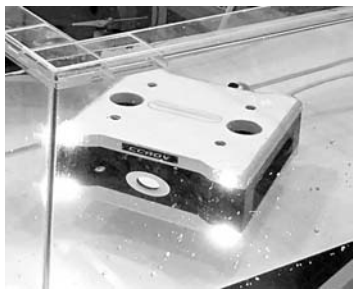
出展予定製品は、次のとおり。

［スチューダー］デジタルミキシングコンソール「OnAir1500」［LAWO］IPコアプラットフォーム「V_Matrix」、スタジオ統合コントロールシステム「VSM」、マルチビューワーコントローラー「the WALL」［グラスバレー］デジタルレコーダー／プレーヤー「T2 4K ELITE」［NTエレクトロニクス］HEVC IPエンコーダー・デコーダー「MV7000」［AVID］スポーツ中継システム「FastServe LiveEdit」［NTテクノクロス］高信頼・高精細映像伝送ソリューション

メディア・リース

メディア・リースドローン事業部は、レンタルおよび販売する豊富なドローン製品群を出展する。取り扱うドローンは、有線または無線の空中用のほか、水中用も充実させている。同社は販売・レンタルだけでなく撮影も請け負う。

水中ドローンの1つ、CCROVは4K対応の小型機で、サイズは約208×204×158㍉、本体重量5524㌘。ビルドインカメラとケーブルにより、720Pライブビデオ伝送で4K動画を受信できる。アプリによるリモートコントロールが可能。IP68高水準の防水能力を持ち、100㍍の深さで潜水することができるという。


水中ドローン「CCROV」（水槽での実演）

水中ドローンはほかに、自動追尾機能搭載4K対応の水中「BW Space」も用意している。空撮用ドローンも数多く扱っている。

コスミックエンジニアリング

コスミックエンジニアリングは、中継・制作・送出監視を支える多様な4K／12G-SDI製品群と新機種を発表する。

コンテンツ管理・監視に適した多機能オーディオ・ビデオ・波形モニター「SP-VM2」の12G-SDI／AES 32chバージョン「SP-VM2-12G-32」を用いた最高品質の4K映像・音声監視をデモするほか、12G-SDI対応のオーディオモニター・メーターの今後の製品ロードマップを新たに発表する。


SCA-SP5

放送映像・音声モジュールシステム「C500シリーズ」は、新たに12G-SDI対応の4×4、8×4ルーターモジュール発表。直感操作と運用状況把握が容易なウェブコントロールシステムの最新バージョンをデモして訴求する。


Clear-Com V-Series Irisパネル

クリアな通話品質と取材カメラの多様化に貢献する光ファイバー伝送対応システムカメラアダプターは、4K／12G-SDIバージョン「SCA-SP5／SCA-BU5」を展示。ソニーのXDCAM 4Kハンディカメラやショルダーカメラとの接続デモを通じて、運用しやすいフォルムと、構築が安易な4Kマルチカム中継運用シーンのアピールをする。

松田通商

松田通商は、Clear-ComのEclipse HXシリーズとして、カラー表示でAES67にも対応したV-Series Iris Panelやモバイルアプリケーションのアgent-ICを提案。Clear-Com「FreeSpeak-Ⅱ」では、1・9GHzと2・4GHzのワイヤレスインターカムを実演する。

このほか、ビデオの光伝送装置「MultiDyne」、12G-SDIビデオトランシーバー「DogBone」、Mini3G&12G HD-SDI光ファイバーリンク「SilverBullet」などを出展する。

ストロベリーメディアアーツ

ストロベリーメディアアーツは、高精細4・6㍉ピッチ屋外型LEDディスプレーパネル「Black Hole 4・6Bio」をブースおよび会場入り口に設置する。会場入り口では門型を構築し、来場者を迎える。


BlackHole 1.9Bi

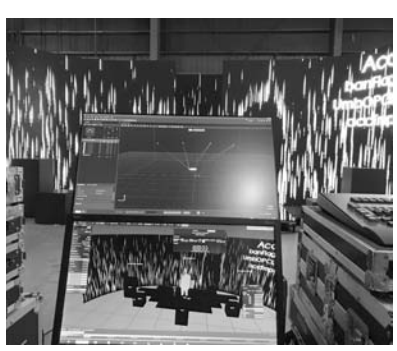
屋外では、5・9㍉ピッチLED搭載でリニューアルしたビジョンカーを出展。このほかブースでは、1・9㍉ピッチ屋内型LED「Black Hole 1・9Bi」や3・9㍉ピッチ型も実演し、自社製の高精細LEDをアピールする。取り扱いのブラックマジックデザイン製品もそろえる。

アークベンチャーズ

アークベンチャーズは、イベント・ショーなどのプロダクションのコンセプト構築段階から本番まで、あらゆる段階をリアルタイムに可視化し、制作をサポートするクリエイティブプラットフォーム「disguise」（ディスガイズ）をメインに、さまざまなタイプのLEDを披露する。

同社が日本総代理店であるdisguiseについては、リアルタイム・トラッキングシステムである「BLACKTRAX」、ブロードキャスト・グラフィックスソフトウエア「NOTCH」を連動させ、disguiseが持つ可能性を説明する。

LED関連は、1・5㍉ピッチの高精細LEDディスプレー、屋内外兼用の軽量LEDディスプレー、メディアプレイヤー内蔵のポスター型LEDディスプレーなど、同社が提供する多様なタイプのLEDディスプレーと、LEDコントローラーを展示する。


Disguiseの活用例

SIMPLY LIVE ▶ ViBoxシリーズ、ビデオサーバーシステム

Vibox シリーズは 3 種類のハードウェアがあり、映像 / 音声処理を行うバックエンドソフトウェアの上に、異なった機能を持つ 4 種のアプリケーションソフトによるシステムです。

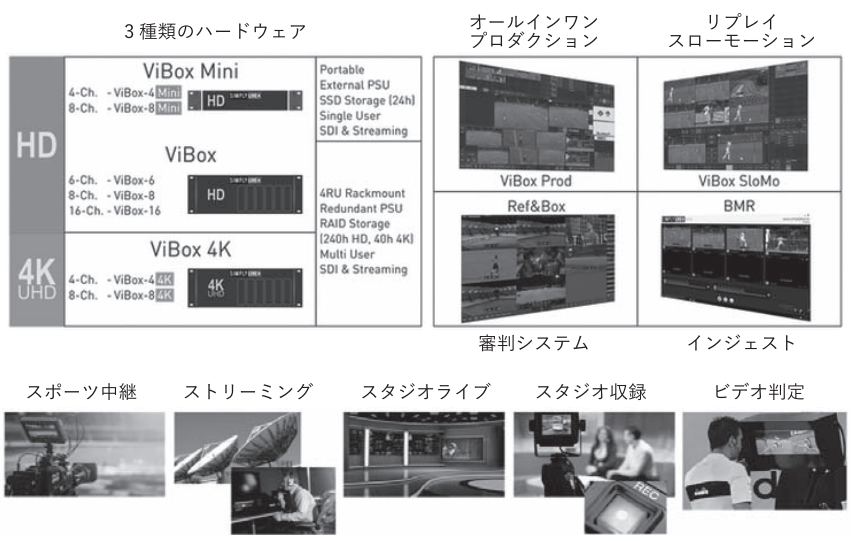
1．**Vibox** オールインワン･プロダクション システム
4/8/16 入力の同時収録、ビデオスイッチング、オーディオミキシング、ダウンストリームキーヤ、撮って出し再生、プレイリスト再生機能

2．**ViBox SloMo** リプレイ／スローモーション システム
4/6 入力の撮って出しスロー専用システム

3．**Ref&Box** ビデオ判定／審判システム
4/8/16 入力の同時収録／再生、選択したアングルのピンチアンドズーム機能を持った審判システム

4．**BMR8** インジェストサーバー システム
8 入力のベースバンド映像を収録し、ファイル化と同時にストリーミングする機能

ViBox SloMo 及び BMR8 には 4K 対応版もあります。



武蔵エスアイ株式会社
〒161-0033　東京都新宿区下落合 3-21-1 NK フジビル 3F
TEL：03-5996-7455　FAX：03-5982-4784
http://www.musashi-si.co.jp

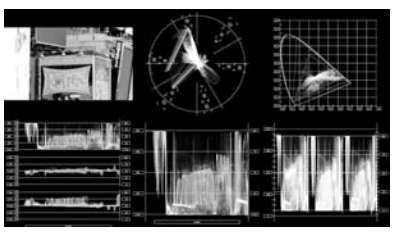
特集 九州放送機器展 出展概要 5

最新のHDRワークフロー実現へ

オールインワン編集機を披露

エヌジーシー

エヌジーシー（NGC）は、低価格4K Editing system「Advant F2203」、レンダリングサーバー「Atum 2101-GX」、ハイパフォーマンス・マイクロ・デスクトップ・ワークステーション「Lavoro DWS-GX」、「4K-Scope」を出展。そのほか4K Flameシステム、リモートレンダリングシステムなど、ソリューション展示をする。



4K-Scope

「Advant F2203」は、NGCオリジナルストレージ内蔵の低価格Flareシステム。データストレージを内蔵したオールインワン編集機となっている。

「Lavoro DWS-GX」は、NGCオリジナルハイパワーワークステーション。デスクサイドに置ける大きさで、Xeon搭載システムに引けを取らないパフォーマンスを発揮する。

「Atum 2101-GX」は、NGCオリジナルCPU／GPUレンダリングサーバー。本格的な水冷システムを備え、長時間での運用でも安定した動作を保証する。

「4K-Scope」は、SDRまたはHDRで一度に最大6つのデータやオーディオスコープを表示可能な4Kスコープ。

エーディテクノ

エーディテクノは、新製品のフルHD解像度（1920×1080）15・6型ワイド（16対9）IPS液晶パネルを採用した、業務用マルチメディアディスプレーを参考展示する。新たにHDMI出力端子を1系統搭載し、入力されたHDMI信号をスルー出力することで、HDMIモニター同士でのデイジーチェーンや、ほかのHDMI入力機器との接続が可能になる。



LCD1560

初展示となる最新業務用薄型HDMI分配器「HUS-0102E」は、スケーリング機能を搭載し、2分配されたHDMI2・0の映像をそれぞれ出力先のモニターに最適な解像度で出力する。

また、DIGITAL FORECAST社の最新機器を参考展示。簡易アナライザ機能搭載コンバーター「X_TSmini」は、5型液晶搭載のHDMI／SDIクロスコンバーター。HDMI／SDIのループスルーチェック機能を新たに搭載。SDIアイパターン表示機能も強化し、メーカー従来品では疑似アニメーションだった波形を、実際の値を基に表示する仕様となった。

そのほか最新の4K30p入出力対応フィールドモニター5型／7型3機種や、フルHD8・9型IPSパネル搭載の業務用マルチメディアディスプレーSDIモデル、12G-SDI対応4K UHD12・5型モニターなどを展示予定。

ビジュアル・グラフィックス

ビジュアル・グラフィックスは、「4K HDRをもっと身近に」をテーマに最新のHDRワークフロー実現に欠かせない各種プロダクトを出品する。



QScan

VFX制作のデファクトスタンダードツールであるオートデスク「Flame」は、最新リリースバージョン（Ver2020）を披露。HDRフィニッシングワークフロー、AIを用いた新機能をデモする。

AJAビデオシステムズ製品からは、HDR信号管理に欠かせないHDRイメージアナライザーやNABショー2019でリリースされたマトリクススイッチャーおよびコンバーターなどの最新12G対応ソリューションを展示する。

ファイルベースのビデオ／オーディオQCシステム「Editshare Qscan」は、デジタルノイズやパカパカチェックをはじめ、HDR、IMF、ドルビーサウンドなどに対応する各種フォーマットチェックを自動化する。

昭特製作所



SX200

昭特製作所は、50年以上にわたり大型カメラ用のサポート機器、クレーンなどの特殊機器を得意としてきた。今回、そのイメージチェンジを図るアイテムの1つである新商品ENGカメラ用三脚システム「SX200」を出展する。

カウンターバランスは独自の無段階完全バランスシステムTRUE BALANCEを採用。調整操作が容易で、現在の調整位置が直感的に分かるインジケーターが備わっている。ドラッグシステムは、大型カメラ用雲台で定評のある無段階の粘性抵抗式VISCAMを搭載。特殊シリコングリスを使用し、温度変化による影響がなく、常に滑らかで安定した操作が可能。

新デザインの雲台部にはマグネシウム合金を用い、軽量かつ強じんなボディーを実現した。カーボンファイバー製の三脚はメンテナンス性に優れ、ブレーキ力の調整は市販工具のみでできる。取材・報道をはじめ、屋内外のさまざまな制作現場でカメラマンから要求される高度なパン・チルト操作に対応できるように高度な安定性を提供する。

LEADING ACCESSORIES MANUFACTURE

バッテリー・ケーブル・レインカバー・LEDライト・乾電池・強力アームなど

高負荷出力スーパーミニVマウントバッテリー



弊社従来品と体積比 47% サイズダウン

高さ 102* 全幅 75mm* 奥行 50mm 重量 515ｇ

14.8V 6.6Ah 98Wh

（10A 120Wまで出力可能）

USB5V2A・パワータップ　各1装備



Li-D98M-S



LED ライト・モニター等に最適

（オプション）

2本装着プレート

VP-LiDW1



高容量・高負荷対応バッテリー SONY(L)シリーズ用

従来比 1.6 倍以上の容量・高負荷対応で 30W まで出力可能

超小型で LED ライトやモニターにも最適！



Li-D570HE

71*39*21 mm 重量 106ｇ

7.2V 3.5Ah 25Wh

（従来品は 2.0Ah 14Wh）

30W まで出力可能



Li-D770HE

71*39*40 mm 重量 205ｇ

7.2V 7.0Ah 50Wh

（従来品は 4.2Ah 31Wh）

30W まで出力可能

NEP エヌ・イー・ピー株式会社

〒102-0074　東京都千代田区九段南3-7-14 VORT九段3階

TEL:03-3263-6741

FAX:03-3265-1297

https://nepinc.co.jp

「AI」を利用したコンテンツ管理システム

DaAlps

操作しやすいインターフェース

「AI」解析を元にコンテンツ管理



DaAlps は、さまざまな主に映像データを登録、管理、AI解析（テロップ文字解析）し、コンテンツをフル活用するプラットフォームです。

コンテンツの管理からアーカイブ、プレイアウトまでシンプルかつ直感的に操作が可能です。

九州放送機器展2019 に出展いたします！

Mistika Mac/Windows対応の新バージョンをリリース　SGO

4K対応ローコスト編集システム／MAワークフロー　AVID Pr

7.31水 ≫ 8.1木　福岡国際センター 1階 映像・放送機器関連ゾーン　No. J-82

共信コミュニケーションズ株式会社 Kyoshincommunications kycom.co.jp

東京都品川区北品川5－9－11 大崎MTビル3F・4F

TEL：03－3445－2077　Mail：info_mk@kycom.co.jp

【九州営業所】

福岡県福岡市中央区舞鶴2-1-10 天神フロントスクエア 5階

TEL：092-732-7001

特集 九州放送機器展 出展概要 6

スポーツ中継や報道制作で活用

AI使いコンテンツ管理システム

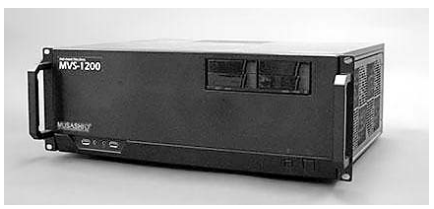
共信コミュニケーションズ

共信コミュニケーションズは、AIを利用した動画文字解析コンテンツ管理システム「DaAlps」、編集作業におけるビデオ・オーディオのデータ共有～アーカイブにいたる一貫したシステムを提案する。

DaAlpsは、さまざまな映像データを登録、管理、AI解析し、コンテンツをフルに活用するプラットフォーム。コンテンツの管理からアーカイブ、プレイアウト、サイネージまでシンプルかつ直感的に操作が可能。

同社が取り扱うSGO社製品は、NABショー2019で発表された最新のMistika Boutiqueを披露。Boutiqueはハイエンドターンキー Ultima のMac／ウィンドウズ版で、Ultimaの機能はそのままに、各OS上で動作が可能。そのほか新製品Mistika WorkflowsやMistika VRの最新版も展示する。


DaAlps


MVS-1200

武蔵エスアイ

武蔵エスアイは、オールインワンプロダクションシステム「ViBox8」、ローコストタイプビデオサーバー「MVS-4K11」「MVS-1200」を出展する。

ViBox8は、6入力2出力のスイッチャー、キーヤ、リプレイサーバー機能を持った一体型中継制作システム。特にスポーツ中継やニュース制作においてリプレイ機能スロー再生などで威力を発揮する。

MVS-4K11は4K対応（1入力1出力）で、スポーツ中継およびニュース制作などで撮って出しスロー再生、ハイライト編集機能で収録しながら編集結果の再生やスロー再生が素早くできる。HDにも対応し、HDの場合は4入力2出力に切り替えて使用可能となっている。

MVS-1200はHD1入力2出力で、撮って出しスロー／ハイライト編集ができる。

ノンリニア編集システムならびにProTools MAシステムとしては、アビッドNEXIS-PROの共有ストレージにおいて、Mediaを使用したIPゲートウェイ・伝送システムのデモを中心に、ストリームの監視システムとして、TAGVS社IPマルチビューワーを展示。デモシステムでは、制御・監視するアプリケーションを展示する。

デジキャス

デジキャスは、マクニカアルティマカンパニーと共同出展し、2つのソリューションを訴求する。

IPソリューションでは、Embrionix社製SFPモジュールベースのIPゲートウェイと、Mellanox社のネットワークスイッチ（SDN）も提案する。

eスポーツ向けソリューションでは、ROSS Video社のオールインワンシステム「Graphite」を中心に展示する。Graphiteは、リアルタイムグラフィックス／プロダクションスイッチャー／オーディオミキサーを4RUの筐体にコンパクトにまとめたシステム。システム規模はシンプルだが、上位機種の機能がそのまま使用できるため、効率良く高品質な制作業務が可能となる。eスポーツ会場でのLEDビジョンへの映像出力も含めて、中継車やスタジオサブでも使用が可能となっている。



SFPベースIPゲートウェイ

イングスJBS

イングスJBSは、新規導入したレンタル機材を中心に出展する。

7月からレンタル開始となった、01TECH（ゼロワンテック）社製のジンバル専用・軽量クレーン「QUICKRANE（クイッククレーン）QKC505」は、最大高5㍍。本体アームがカーボン素材のため、非常に軽量で設営も容易であることが特徴。レンタル利用時には、DJI「RONIN-S」が付属される。

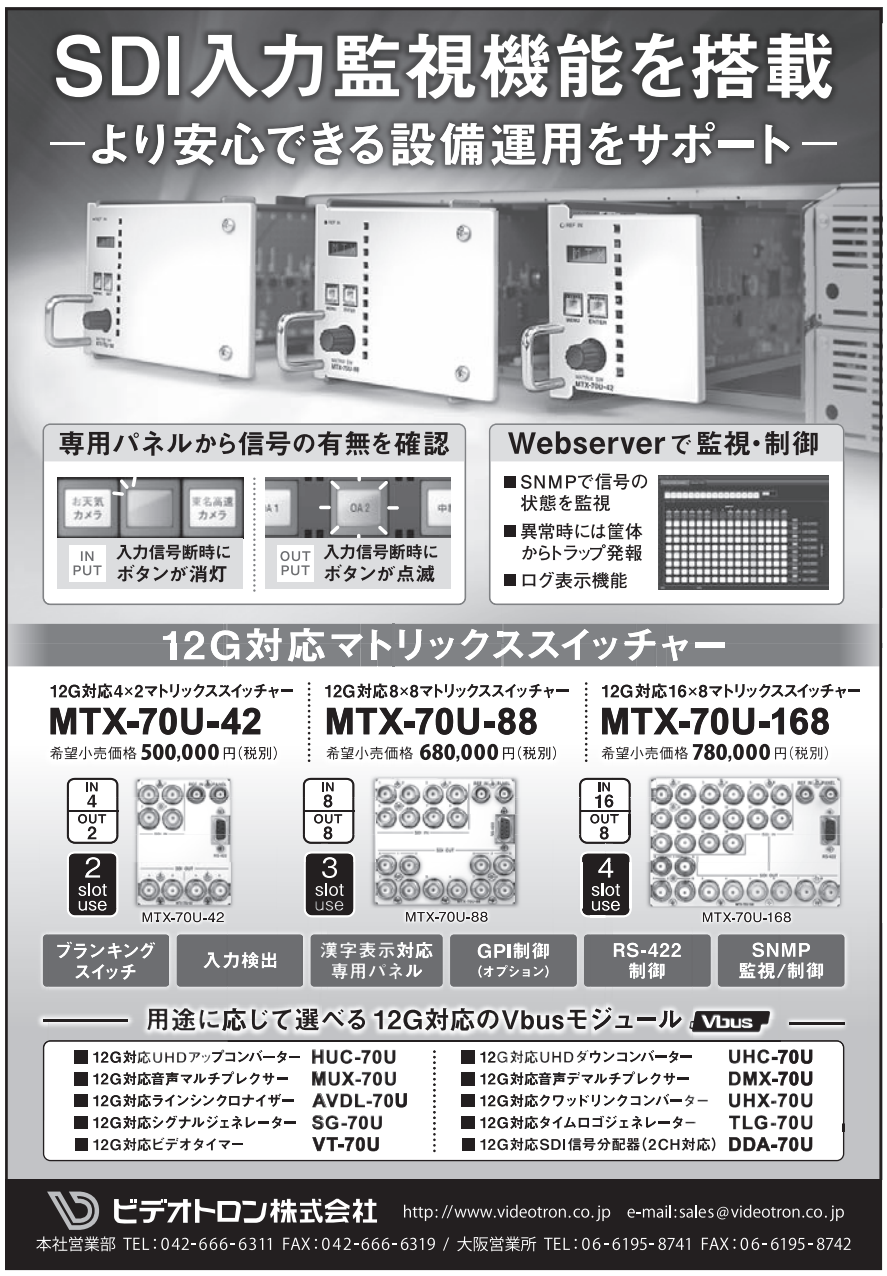
6月には複数のレンズマウントに交換可能な、angenieux「EZ-1・EZ-2」を導入。ソニー「α7Ⅲ」やパナソニック「AU-EVA1」との組み合わせで展示する。

同社は、大阪・福岡に拠点を置き、さらに広島にはグループ会社イングスJBSプラスがある。顧客は大阪で借用した機材を福岡や広島で返却することも可能だ。今回の出展では西日本での高い利便性の認知度向上を図る。

なお、福岡ブランチは2019年9月1日から新住所へ移転する。機材チェックスペースの拡張など、より顧客へ寄り添ったレンタル会社を目指すという。


熊本城マラソン2019の中継現場で使用





特集 九州放送機器展 出展概要 7

防災・減災ソリューション訴求

九州エリアで初出展の新製品

フォトロン

フォトロンは、アビッド、EVS、Trackmen、Vizrtをはじめとする、同社が取り扱うプロダクトの最新映像制作システムを出展。『CM編集ワークフロー』と設備の『今』をテーマに、太陽企画によるセミナーも開く。



EVS「XT-VIA」

アビッド製品は、6月に発表されたばかりの「Media Composer」最新バージョンをはじめ、快適で強力な編集環境を提供するストレージ「NEXIS｜E4」、NEXISファイル管理システム「Media Central｜Editorial Management」をアセット管理のエントリーモデルとして展示する。EVSからは、転送速度向上／長距離伝送を可能にする「XNet－VIA（10GbE）」を搭載した最新のハイエンドライブプロダクションサーバー「XT－VIA」を九州エリアで初めて実機展示する。HFR、4K など、中継素材の高精細化に伴う拠点間の映像ソース共有時のストレス からの解放を提案。また、収録映像を汎用ファイルフォーマットでバックアップ・転送・リストアする「XFile3」による中継制作ファイルベースワークフローを披露。

このほか、九州エリア初出展となる国産・自社開発テロップシステム「TFX－Artist」による、より効率よく、よりハイクオリティなテロップ制作を提案する。

さらに、リアルタイムグラフィックス演出システム「Vizrt」と、九州エリア初出展となるTrackmen社のマーカーレスカメラトラッキングシステム「ViotTrackR」による、スムーズで汎用性の高いバーチャル／AR演出を披露する。

タックシステム

タックシステムは、同社取扱各社の製品を出展する。


ADDER INFINITY 4000

Avid ProTools Ultimate ever2019・6は、MacOS Mojaveに対応した新バージョンを展示。新機能にトラック・プリセットやミックス・ウィンドウのすべてのチャンネル・ストリップに新しいEQカーブ・グラフが追加され、再生しながら中断せずにトラックやタイムライン選択範囲を操作し、変更を加えることができるようになった。

モニターボリュームコントローラーには、TACSYSTEM VMC－102を展示、MTRX I／OをDADman送付とウェアなしにコントTEを採用した。

4K対応の新製品ADDER「INFINITY4000シリーズ」は、10Gオプチカルケーブル1本で4K60pデュアル画面、USB2・0、オーディオに対応する。VFX／カラーグレーディング作業も可能とする高画質、低遅延を実現。

マルチチャンネル・ハーモナイザー「Eventide H9000」は、ライブや放送業界に向けて開発を進めてきたマルチチャンネルに対応したエフェクター。入出力フォーマットにはアナログ、AES／EBUを持ち、オプションでMADIやAoIPにDANTEを採用した。

メディア・リース
ドローン事業部
撮影機材と
水中・空中ドローンの
レンタル及び販売
水中ドローンの体験展示


http://www.mlinc.co.jp
お電話でのお問合せ：☎03-3589-1811

アトラクター

アトラクターは、放送の次世代システムとして誕生し、実運用として始動を開始した、地デジ電波による防災・減災ソリューションを披露。自治体向けソリューションも提案する。放送電波を活用し、確実に正確な情報をスマートフォンに配信。社会のための重要な役割を担う。

特徴は、①「地デジの電波環境」をそのまま使用、②県内全域から地域単位まで「情報を振り分け」、③不正ができない「情報セキュリティー」、④放送で確実な「遠隔制御」を実現、⑤「送受信システム」パッケージの提供など――となっている。



土砂災害情報（警戒判定メッシュ）

大きな災害が発生した後、命を守るために避難所へ避難した場合を想定。そのような大きな自然災害においても、正確な防災情報を確実に、避難している人々のスマホに配信する。

クロスイメージング

クロスイメージングは、迅速かつ正確な情報伝達が求められる放送業界のニーズに対応するため、各種情報システムのアプリケーション・ソフトウエアをはじめ、グラフィックスボード、ドライバーや各種デバイスも自社で設計開発し、保守運用サービスまで一貫したソリューションを提供する。

今回は、放送局向けとして、新気象情報作画送出システム「NewWeatherStation」、新防災情報作画送出システム「NewMediaCommunityStation」、L字気象防災情報送出システム「MediaCommunity Station」を提案する。

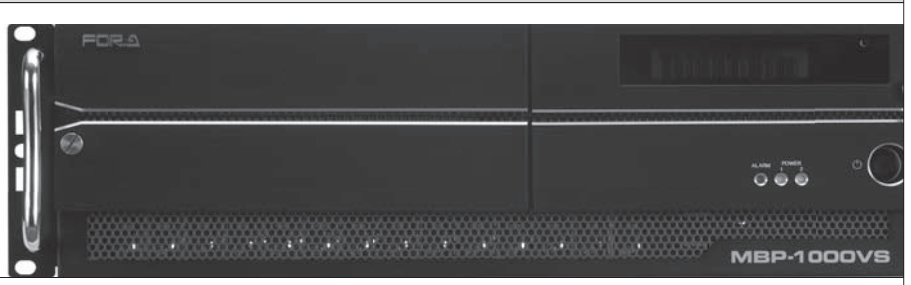


SDI/IPを意識することなく
システム全体をコントロール
SDI/IP 統合制御ソフトウェア **SOM-100**

SFP+および
SR Live for HDRに対応
SR Live for HDR
4K/12G-SDI/HDR/ 広色域対応 2 系統プロセッサー **FA-9600**
SR Live for HDR はソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ株式会社の提唱する HDR 映像制作ワークフローです。




1台でバーチャル運用と
RCG運用の双方に対応
バーチャルスタジオ / リアルタイム CG システム **VRCAM-NX**

4K収録サーバー
として活躍
12G-SDI 対応ビデオサーバー **MBP-1000VS シリーズ**


九州放送機器展2019 ブースNo. D-36
FOR-A World of Possibilities FOR.A®

「あなたの名前が呼べたら」

インドから快作が登場する。女性監督ロヘナ・ゲラの『あなたの名前が呼べたら』（2018年／インド・フランス合作、ヒンディー語・英語ほか、99分、原題『SIR』）である。書き手として、取り上げる作品を選ぶ際に数多くの本数を見るが、その中にあり、見ていて爽やかで、上映終了後、立ち去りがたい思いにさせられる、数少ない作品である。

（中川洋吉・映画評論家）

一応、インド・フランス合作となっているが、舞台はインド映画の聖地「ボリウッド」ことムンバイである。主人公の、大都会でメイドとして働く女性ラトナ（ティロタマ・ショーム）の出身地は、ムンバイから西へ数100キロメートル離れたデカン高原の小さな村。国土の広さが日本の約10倍のインドにしても、相当な田舎といえる地域である。華やかな都会で色鮮やかなムンバイと片田舎の対比。底知れぬ奥深さがインドという国の面白さだ。広いインドのこと、使用言語は数多くあり、ムンバイではヒンディー語が使用されているが、ラトナの故郷ではマラーティー語を話す。一般には耳にしないが、この辺りがインドの持つ多様性の1つなのだ。



「あなたの名前が呼べたら」（ラトナ㊧、後ろに見えるのはムンバイ市）
©2017 Inkpot Films Private Limited,India（以下同じ）

インドの身分制度による越えられぬ壁

若い男女の愛の葛藤を描く

夢を追う一途さに爽やかな感動

数年前まで、一世を風靡（ふうび）した、歌って踊っての長尺のインド風ミュージカル作品〝マサラムービー〟に取って代って、一般市民の日常を描く作品が増え、上映時間も短くなってきている。その一般市民の生活がのぞける最近のインド映画は、インドの別の面を見る上で非常に興味深く、そこが楽しみでもある。

マサラムービーの荒唐無稽（むけい）な娯楽性に徹する作風は、国内の貧しい人々の最大の娯楽で、それなりの価値がある。庶民の夢の実現なのだ。それに対し、都市の一般市民の生活を描く作品が進出する現在は、明らかにインド社会全体の変化が見て取れる。

◆もう1つの身分制度

本作『あなたの名前が呼べたら』は、楽しさはもちろんのこと、同国の身分制度を背景としている。映画自体の範ちゅうはメロドラマに属し、愛の葛藤が貫流する。

若い男女2人の親密度が増すにつれ愛が深まり、メロドラマの王道をひた走る。このメロドラマの構成も1段ずつ盛り上げられ、心地良さがひしひしと伝わるあたり、その醍醐味（だいごみ）をたっぷり味わせてくれる。この展開が良い。

物語の焦点の奥に、現代インドの抱える深刻な問題が横たわっている。古来、インドはカースト制度が厳然として存在し、人々の身分は、わが国の江戸時代の士農工商と似た構造であり、抜け出られるものではないとされてきた。

しかも、それ以外に新しい身分制度ともいうべき、財力、教養による差別が存在する。極端な言い方をすれば、地方の農村出身者は死ぬまで下位にランクされる人々で、富裕層と貧困層とは厳しく差別され、交わることは絶対あり得ないとされている。

本作では、その交わるはずのない2つの階級の接近が、若い男女の愛を通して語られ、メロドラマとしての輝きを放っている。



ロヘナ・ゲラ監督

◆登場人物

田舎出身の主人公ラトナは、ムンバイの金持ちの家でメイドとして住み込みで働く。恋する相手は、その家の主で建設業を営む一家の次男のアッシュヴィン（ヴィヴェーク・ゴーンバル）。彼は婚約中であったが、相手の浮気で破談となり、失意の身（婚約した女性が浮気を白状することなど実際にあるだろうか、この点がちょっと疑問であるが）。

アッシュヴィンは、父親の会社の経営に携わるが、その時に2人は数語交わすのみである。ご主人とメイドが口をきくことはほとんどないが、時間があるアッシュヴィンはメイドの境遇を聞き、自分とは全く違う世界を知ることとなる。

◆1つの頼み事

幼い時から裁縫が得意なラトナは、アッシュヴィンにある頼み事をする。仕事の暇な午後2時から4時まで、給料なしで洋服屋を手伝い、正式に裁縫を習うことである。気の優しい彼は快くOKを出す。しかし、師匠たる洋服屋は掃除ばかりさせ、一向に技術を教えない。

すっかり頭に来た彼女に、メイド仲間が裁縫学校を紹介するものの、ラトナは頑として受け付けない。妹の学業終了前の出費を避けるためである。そこでメイド仲間は「もっと人を頼ったらどう」と年下の彼女を叱る。ここにラトナの自立心が見られる。人に頼らず自力でやる、気持ちの強さが彼女にはある。

ある時、彼女の落ち込んだ表情を見て、アッシュヴィンは事情を察し、以前にも増して彼女に関心を持つ。

◆妹の結婚式

彼ら2人の関係をより近づけたのが、故郷の妹の結婚式であった。このためラトナはアッシュヴィンに3日間の休暇を願い出て、快諾を得る。本来ならば、どうでも良いメイドの家族の結婚式だが、彼はお祝いとして金一封を包む。彼女にとり考えもしないことだった。

裁縫手伝いに快く出してくれたご主人様に、彼女は手縫いのシャツをプレゼントする。そのお返しに、彼はファッション雑誌を贈り彼女を喜ばす。そして駄目押しは、彼からの電動ミシンのプレゼントで、さらに彼女を感激させる。



アッシュヴィン㊧とラトナ

これらのやり取りは、ラトナの根城である台所の一隅が舞台となっている。彼が彼女に用事を言いつけるときは、いつも丁寧に「アッシュヴィン様」と答える。主従の関係だ。

アッシュヴィンの友人の1人は、彼があまりにも落ち込み、悲しみ、そしてメイドへ傾斜する様子を見兼ねて、深入りは避けるように忠告する。アッシュヴィンは「ラトナには信頼を感じる」とそれに答える。彼にとって彼女は、口数の少ない心優しい支えなのだ。

◆分をわきまえた態度

彼だけでなく、彼女も心を寄せるが、どうしても越えられぬ一線は2人の身分差である。故郷の家族のための働き手としての分を守り、彼の愛を受け入れない。そして、身分違いの恋を諦め、彼女は彼の家を去る。自分がなりたいと思うファッション・デザイナーの夢へ向かって――。

出掛けにラトナへ1本の電話が入る。彼からと気付きながら、ためらうラトナ。しかし、思い切ってそれまでの殻を破り、敬語を使わず「アッシュヴィン」と彼の名を呼ぶ。身分差のハードルの1つを越えたのだ。

2人は主従関係を乗り越えた横の関係へと移行する。彼女に去られた彼は再起を期し、父親の了解を得て、再びライターとして米国の暮しのため旅立つ。

身分違いの恋、越えられぬ壁。それをものともせず、自分の夢を実現するための自立の道。その一途さに、爽やかさが満ちる。大変見やすい感動の1本であり、その奥のインドの社会事情にも触れている。もっともっと見ていたい作品だ。

〈文中敬称略〉

■『あなたの名前が呼べたら』は、8月2日からBunkamura・シネマほか全国順次公開

映像新聞 無料メールマガジン
Vizcom（ヴィズコム）
映像新聞がお届けするメールマガジン「Vizcom」は、ビジネスに役立つ情報をいち早くご提供していきます。映像新聞および、映像新聞ウェブサイトも同様にご愛顧ください。
配信登録は
www.eizoshimbun.com

映像新聞 縮刷版 2018 後期版
詳細・ご購入は下記URLから
http://www.eizoshimbun.com/shukusatsuban/shuku_annual.html
半年分の映像新聞を1冊にまとめた「2018年後期縮刷版」が発行となりました。めまぐるしく変化する映像業界の動向を集約する「映像新聞縮刷版」は、目次をもとに情報が簡単に索引できます。企業のビジネス戦略において、貴重な情報ツールとして、また、保存版の映像新聞として広くご利用いただいております。縮刷版は1979年から発行し、1985年から年2冊（1月～6月、7月～12月）刊行しています。
■縮刷版　A4判　各年半年分　7,000円＋消費税（送料別途）

●ご購読のお申込み・お問い合わせ●　株式会社 映像新聞社　〒112-0006　東京都文京区小日向 1-24-8　エイゾービル ／ TEL：03-3942-2161 ／ FAX：03-3942-2581 e-mail：info@eizoshimbun.com

NAB SHOW®
Where Content Comes to Life

www.nabshow.com



www.nabshowny.com

New York　Javits Convention Center

NAB SHOW NEW YORK
Formerly Content & Communications World (CCW)

10月15日（火）～20日（日）4泊6日

NAB Show NY 視察ツアー参加者募集



NAB Show NYツアー日程表

旅行業公正取引協議会会員　JTB

	日付	地名	現地時間	交通機関	スケジュール	食事
1	2019年 10月15日 （火）	東京（羽田）発	10:40	JL006	空路、ニューヨークへ	機内食：2回
		～～～～～～～～～国際日付変更線通過～～～～～～～～～				
		ニューヨーク着	10:35	専用車	到着後、専用車にてホテルへ（ガイド付） <ニューヨーク/The New Yorker A Wyndham Hotel 泊>	夕食：×
2	10月16日 （水）	ニューヨーク	終日	徒歩	ホテル朝食 NAB2019ニューヨーク視察（ジェイコブ・K.ジャヴィッツ会議センター） ※お客様ご自身で会場へ移動（通訳が同行します） <ニューヨーク/The New Yorker A Wyndham Hotel 泊>	朝食：○ 昼食：× 夕食：×
3	10月17日 （木）	ニューヨーク	終日	徒歩	ホテル朝食 NAB2019ニューヨーク視察（ジェイコブ・K.ジャヴィッツ会議センター） ※お客様ご自身で会場へ移動（通訳が同行します） <ニューヨーク/The New Yorker A Wyndham Hotel 泊>	朝食：○ 昼食：× 夕食：×
4	10月18日 （金）	ニューヨーク	終日	専用車	ホテル朝食 ニューヨーク 放送関連企業視察（通訳が同行します） <ニューヨーク/The New Yorker A Wyndham Hotel 泊>	朝食：○ 昼食：× 夕食：×
5	10月19日 （土）	ニューヨーク		専用車	ホテル朝食 専用車にて空港へ（ガイド付）	朝食：○
			13:10	JL005	空路、東京（羽田）へ	昼食：×
		～～～～～～～～～国際日付変更線通過～～～～～～～～～			<機中泊>	夕食：×
6	10月20日 （日）	東京（羽田）着	16:25		空港到着後、解散	

- 昨年度より NAB Show NY 視察ツアーを開始
- ツアー価格 398,000 円 /（2 名 1 室）
  1 名 1 室の場合、96,000 円の追加料金
  （航空会社や現地事情により変動する場合あり）
- 最小遂行人数 10 名（参加者多数の場合、展示会場内専用サロンの設置）
- 空港ホテル間、専用車にて送迎（日本語ガイド付）
- 滞在ホテル [The New Yorker A Wyndham Hotel] は、マンハッタン中心部（8 番街）、展示会場（ジェビッツコンベンションセンター）まで徒歩 10 分。
- 毎朝食付（ホテル内レストラン）
- 展示会場内ブース見学ツアー（逐次通訳随行）
- 放送業界関連企業ツアー（同時通訳随行）
- 申込締切：8 月 13 日（火）（以降は要相談）

NAB Show NY は、首都ワシントン D.C. からも近い世界金融の中心地ニューヨークで 2015 年より開催。
展示会場はハドソン川沿いの絶景地点。
ニュース、メディア配信、今後発展するインターネット放送など、リアルタイム性とセキュリティー関連の最新製品の展示やセミナーを開催。
NAB Show ラスベガスでは展示されない製品も多数。



ツアー資料請求先

株式会社JTB　新宿第二事業部　営業二課
JTB NAB Show NY 2019ツアーサポートデスク
担当　秋山・小川・村岡
〒163-0426 東京都新宿区西新宿2-1-1　新宿三井ビル26階
TEL：03-5909-8102　FAX：03-5909-8110
MAIL：nab@jtb.com

参加・出展 問合せ先

NAB日本代表事務所（映像新聞社）
担当　福田
〒112-0006 東京都文京区小日向1-24-8　エイゾービル
TEL：03-3942-2381　FAX：03-3942-2581
MAIL：nabshow@eizoshimbun.com

アスク
VR／ARでコラボ環境構築
関連製品の体験セミナー

アスクは、VR／AR技術を用いたコラボレーション環境構築を検討している法人向け「TsunamiXR社製VR／ARコラボレーションツール、TSUNAMI XR WORKSPACESソリューションセミナー」を7月30日に開く。参加無料。

このセミナーでは、複数人でVR／AR空間共有ができる「TSUNAMI XR WORKSPACES」製品の解説および体験スペースを用意している。ARR機能ではタブレット端末を使用して、より手軽な製品情報共有や製造現場での活用も可能にする。

TSUNAMI XR Studioを使用した対話コンテンツ開発ツールとコンテンツ体験も実施。さらに新たにリリースされたV5・3の最新機能を含む最近の機能拡張（操作体験、タブレットモード、ARモードなど）についても説明する。

また、モバイルVRを実現するスタンドアロンタイプのHMD（ヘッドマウントディスプレー）での利用も提案する予定。

【日時】7月30日／15―17時

【会場】アスク（東京都千代田区九段南4―8―21山脇ビル7階）

【定員】10人（1社2人まで／定員になり次第締め切る）申し込み締め切り＝7月29日17時

【申し込み】www.ask-corp.jp/inquiry/tsunami-xr-seminar.html

グラスバレーが展示会
IPライブシステム
各社製品と組み合わせ

グラスバレーは、8月1、2日の両日、「IPライブ ソリューション展」を同社・日本橋オフィスで開く。システムカメラ、リプレイシステム、プロダクションスイッチャーをはじめとしたライブ制作機器を、Video over IP SMPTE ST2110で接続、協賛各社のIP対応機器と組み合わせて提案する。

協力会社は、アリスタネットワークスジャパン、スチューダー・ジャパン―ブロードキャスト、トモカ電気、ベルボン、武蔵オプティカルシステム、リーダー電子。

主な展示製品は、ネイティブUHDセンサー搭載システムカメラ「LDX86N」、HD／UHD対応スポーツリプレイ・ハイライト制作システム「LiveTouch」、プロダクションスイッチャー「KulaIP」、IPゲートウェイ「IQ UCP25」、マルチビューワー「MV―821―IP」、IP対応ルーター―コントローラー「GV Convergent」、IP対応波形モニター「Leader LV5600」など。

事前予約は不要。

【日時】8月1、2日／10―17時

【会場】グラスバレー日本橋オフィス（東京都中央区日本橋1―12―8第二柳屋ビル3階）

【詳細】www.grassvalley.jp/ip-livesolution

第174回CRIフォーラム
「ハイコネ」活用事例報告
新サービスの可能性を探る

ケーブルテレビ情報センター（CRI）は、8月8日に第174回CRIフォーラムを「スマホとつなげばテレビが変わる!!～NHK＋民放局が考える『ハイコネ』による新たなテレビサービスとは?～」と題して、次の3つのテーマで開催する。

［パート①］▽NHKが考える「ハイコネ」を使った次世代放送サービス（講師＝NHK放送技術研究所ネットサービス基盤研究部／藤井亜里沙氏）

昨年の「技研公開」以降、NHKではハイコネ（ハイブリッドキャスト・コネクト）を使った新たな放送サービス実証実験に取り組んでいる。そこで、①データ放送からハイブリッドキャスト（HC）、ハイコネまでの開発経緯や運用仕様、②ハイコネによる「放送通信連携サービス」（技研公開の注目サービス）、③視聴データや地図情報を生かした視聴・行動連携サービス―などについて説明する。

［パート②］▽民放（ローカル局）における「ハイコネ」による新サービス（4K動画視聴等）について（TBSテレビ メディア企画室担当局次長／高林徹氏）

データ放送やHC設備がないローカル局でも、スマートフォン（スマホ）やタブレットに搭載されたハイコネアプリを使うことでテレビ（HC／ハイコネ対応）の起動が可能になる。パート②では、「ローカル局（民放）におけるスマホ＋ハイコネ活用（4K動画視聴）」について報告する。ハイコネ搭載STBを使えば、CATV局でも「4Kサービス」が可能となるだけに「ローカル民放」の動きは注目される。

［パート③］▽ケーブルテレビ網を活用した「コミチャン4K」×「ハイコネ」による4K同時配信について（ギズモインターナショナル取締役／滝藤洋佑氏）

秋田ケーブルテレビと日本デジタル配信（JDS）およびジャパンケーブルキャスト（JCC）では、ギズモインターナショナルが開発した「SPIDER」と「HC／ハイコネ」を用いた「一般的な家庭用回線でも高品質（4K60p）な映像が低遅延で安定して視聴できるかの検証」を実施した。その結果を報告し、今後の可能性について考察する。

【日時】8月8日／14時30分―17時

【会場】日本プレスセンタービル10階（日本記者クラブ）ホール（東京都千代田区内幸町2―2―1）

【会費】CRI会員5000円、非会員1万5000円

【申し込み・詳細】www.cri-info.jp/20190712_5687.html

全国の入札情報を毎日メールでお届け！
膨大な数の入札・落札公告から効率的な情報入手‼
映像入札王のご案内
入札王
入札情報提供サービス
映像入札王とは？
中央省庁、独立行政法人、地方自治体等の入札情報を提供するサービスです。
映像制作・関連機器、ホームページ制作、広告制作、情報処理、調査等あらゆる分野の最新の入札情報を毎日ご提供します。
映像新聞読者は 5% 引き　こちらのサイトからご利用ください
http://www.eizoshimbun.com
10 日間 お試し
無料トライアル実施中
トライアル期間で入札王の効果を実感してください

人事

◇東北新社（6月27日付）
▽代表取締役社長 二宮清隆▽取締役副社長 中島信也、伊藤良平（以上、昇格）▽取締役常務執行役員 河西正勝、大鳥論▽取締役執行役員 三上義之▽執行役員 吉田大二、鵜飼陽、大沼和彦、福岡正章（以上、新任）

◇エキスプレス（6月27日付）
▽取締役 大富将司（企画開発担当）、加藤寛治（技術担当）、山本篤（エキスプレススポーツ社長）（以上、新任）

◇銀座サクラヤ（7月）
▽代表取締役社長 浅沼健司

「情報」がビジネスを熱くする。

映像新聞は、放送やブロードバンド、デジタルコンテンツプロダクション、映像制作者など映像業界へ向け、ビジネスとテクノロジーの両視点で情報を発信している専門紙です。映像のデジタル化は、デジタル放送やデジタルシネマといった新しい文化を創り、ブロードバンドにより新しいコミュニケーションを発達させました。映像新聞は、これらの動きをいち早く伝え、新鮮な情報をお届けいたします。
ビジネスを熱くするメディア……それが「映像新聞」です。

映像新聞
毎週月曜日、月4回発行（年間48回発行）
基本ページ数
20ページ／タブロイド判
年間購読料：26,000円（送料込み）＋消費税
海外での購読の場合は、消費税分を除いた料金に別途送料がかかります。　詳しくはお問い合わせ下さい。
ウェブサイトからもお申し込みいただけます
www.eizoshimbun.com

短期購読および複数購読のご案内
●短期購読の場合
◎3カ月購読の場合：7,200円（1部600円×12回＋消費税）
◎6カ月購読の場合：14,400円（1部×24回＋消費税）
●複数購読の場合（年間購読契約のみ）
対象となる購読者（以下の3つの条件をすべてを満たすこと）
◎送付先が同一であること
◎請求先が同一であること（送付先とは別でも可）
◎購読契約期間（契約更新月）が同一であること
※料金（申し込み部数により料金を割引きます）
・2–5部は10%割引き　（1部、年間23,400円・消費税込）
・6–9部は20%割引き　（1部、年間28,000円・消費税込）
・10部以上は30%割引き（1部、年間18,200円・消費税込）

●ご購読のお申込み・お問い合わせはこちらへ。　映像新聞社　〒112-0006　東京都文京区小日向1-24-8エイゾ–ビル TEL 03-3942-2161　FAX 03-3942-2581 e-mail:info@eizoshimbun.com

SONY



4Kに
さらなる描写力を。

本格的な4K放送時代へ。ソニーから、新開発グローバルシャッター機能付き
2/3型 4K 3CMOSイメージセンサーを搭載したカメラが登場。
ローリングシャッター歪みやフラッシュバンドのない映像を表現でき、
4K映像の1コマ1コマの美しさまでも追求。音楽やスポーツなどのライブ中継を
限りなくリアルに、感動をありのままに伝えます。

SR Live for HDR　IP Live Production System

4K

真の4K映像を写し撮るソニーの4Kカメラ。

4Kマルチフォーマットポータブルカメラ
HDC-5500 NEW
カメラコントロールユニット
HDCU-5500



HDマルチフォーマットポータブルカメラ
HDC-3500 NEW
カメラコントロールユニット
HDCU-3500
※オプションで4K対応



マルチパーパスカメラ
HDC-P50 NEW
※オプションで4K対応



ソニーのプロフェッショナル/業務用映像制作機材の情報は　sony.jp/pro-cc/
広告掲載商品に関するお問い合わせは 業務用商品購入相談窓口［フリーダイヤル］0120-580-730
受付時間:9:00～18:00（土・日・祝日・弊社休業日は除く）

◎ソニーおよびSONYは、ソニー株式会社の登録商標です。 ◎その他記載されている商品名は、各社の商標または登録商標です。本文中ではTM、®マークは明記していません。
◎商品を安全に使うため使用前に必ず「取扱説明書」をよくお読みください。◎掲載商品の仕様や外観は改良のため予告なく変更することがあります。

Sony Business Solutions Corporation
ソニービジネスソリューション株式会社